

V	2017年度 開講科目一覧表	44
VI	開講科目教科内容	47
VII	諸 規 程	140
1	聖和短期大学学位規程	
2	聖和短期大学授業科目履修規程	
3	聖和短期大学試験規程	
4	聖和短期大学における文部科学大臣が別に定める学修の単位認定規程	
5	聖和短期大学における入学前の既修得単位等の認定規程	
6	聖和短期大学の授業・試験実施に関する警報発令及び交通機関の運行停止等の取扱要領	
7	聖和短期大学出欠規程	
8	聖和短期大学共通単位講座に関する規程	
9	聖和短期大学における教員の免許状授与の所要資格の取得に関する規程	
10	聖和短期大学における保育士の所要資格の取得に関する規程	

付 録

- ① 所属する短期大学以外における学修について
- ② 受講票

伝達・連絡は掲示します

大学からの伝達・連絡は、すべて掲示板の掲示物によって行います。掲示した内容については各自で確認したものとして取り扱います。したがって、掲示内容を見忘れたり、見落としたりして不利にならないよう注意してください。毎日の登校・下校時には掲示物及び掲示内容をよく確認してください。

なお電話による問い合わせには応じられませんので、気をつけてください。

掲示場所：1号館西の短期大学掲示板コーナー

I 教育課程について

1 教育課程（カリキュラム）

「教育課程」(カリキュラム)とは、学科の教育理念及び目的に基づいた専門教育を行うために、基礎となる一般教育科目から専門教育科目へと、系統的にまた総合的に編成された課程のことをいいます。

設定された教育課程に基づいて、2年間の学修をすすめるのです。

2 授業の構成

教育課程（カリキュラム）中の授業科目は、次のような科目群によって構成されています。

		区 分
聖和短期大学	保 育 科	一般教育科目・専門教育科目

3 必修科目・選択科目

必修科目……………卒業するためには必ず履修し、その科目の単位を修得しなければなりません。

選択必修科目……………卒業するためには指定された数科目の中から自分で選択し、所定の単位数を必ず修得しなければなりません。

選択科目……………複数の科目から自分で選択し、卒業するために必要な単位数を修得しなければなりません。

4 単位制度と自習時間

短大での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、授業科目を履修し試験に合格することによって、各授業科目に定められている単位を修得していく制度です。そして、定められた期間に所定の単位数を修得することによって卒業できるのです。

単位とは、学習量を測る基準です。日本の大学・短大等の場合、1単位の学習量は、45時間の学習を標準とするように決められています。「学習時間＝授業時間＋自習時間」であり、本学の授業時間では、1時限（90分）を2時間と換算して計算します。単位数計算の詳細は、学則（要覧記載）を参照してください。重要なことは、この学修時間の中に自習時間が含まれているということです。授業ごとに必要な自習時間は異なりますが、ほぼ次の表のとおりになります。

予復習など自習時間の目安（集中講義および学外実習等を除く）

開講期間	1週間の授業回数	単位数	授業1回あたりの自習時間の目安
1学期	1回	2単位	4時間
1学期	1回	1単位	1時間
1学期	2回	2単位	1時間
通 年	1回	4単位	4時間
通 年	1回	2単位	1時間
通 年	0.5回	1単位	1時間

※2時限連続開講の授業も、週に2回開講の授業です。

※1回の授業時間が0.5時限の授業は、1週間の授業回数×0.5で計算します。

※保育科2年生春学期の授業は、1週間の授業回数×0.5で計算します。

Ⅵ 開講科目教科内容

履修計画を立てる上で、教科内容は大変重要です。よく読んで履修登録の良き資料としてください。

保 1	キリスト教学			卒 業	必修
				幼二種	—
	2 単位	講義	秋学期	保育士	必修
小見 のぞみ				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
この授業では、キリスト教とはどのような宗教なのかについて、聖書（キリスト教の教えの中心となることが書いてある本）と讃美歌（キリスト教の考え方を表す詩に曲をつけた歌集）を用いて講義していく。その中で、キリスト教保育を実践するときの土台となるキリスト教の子ども観や、他者（特に幼い者、弱い者）を愛するという教えを理解できるように解説する。			①イントロダクション		
			②旧約 創造物語 1 はじめの一週間		
			③ 〃 創造物語 2 エデンの園		
			④ 〃 族長物語から出エジプト		
			⑤ 〃 モーセと十戒		
			⑥ 〃 イスラエル王国時代		
			⑦ 〃 預言者たち		
到達目標			⑧新約 イエスの誕生（マタイ福音書）		
1. 聖書の物語や言葉のいくつかと、クリスマスなどのキリスト教行事について説明できるようになり、讃美歌を数曲以上歌えるようになる。 2. キリスト教の教えや考え方から、自分の生き方、子ども観を検討するようになる。			⑨ 〃 イエスの誕生（ルカ福音書）		
			⑩ 〃 イエスが出会った人たち		
			⑪ 〃 イエスの教え		
			⑫ 〃 イエスのたとえ話		
			⑬ 〃 イエスの受難 受難週のできごと		
			⑭ 〃 イエスの受難 十字架		
			⑮ 〃 復活（イースター）からペンテコステへ		
成績評価基準					
期末レポート（授業への取り組み、小レポートを含む課題ノート）90%、コメントカード10%で評価する。					
テキスト					
「新共同訳 聖書」日本聖書協会、「讃美歌21」日本キリスト教団出版局、1997年					
準備学習の内容					
学期中の礼拝出席を準備学習として、テキストである「新共同訳 聖書」「讃美歌21」に親しむこと。					

保 1	情報処理論			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	—
坂口 将太				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
我々の生活にとって情報処理機器の登場はどのような意味をもつのか、我々の生活をどのように変化させるのかについて講義する。加えて、様々な情報処理機器と情報ネットワーク環境成立の歴史、その仕組みと働き、利用法や生活の中での注意点などについて紹介する。				①オリエンテーション	
				②情報処理の始まり	
				③記号による記憶とコミュニケーション	
				④文字（印刷）によるコミュニケーション	
				⑤情報処理・通信機器の歴史（アナログ）Ⅰ：電信・電話	
				⑥情報処理・通信機器の歴史（アナログ）Ⅱ：映像	
				⑦情報処理・通信機器の歴史（デジタル）Ⅰ：マイコン	
				⑧情報処理・通信機器の歴史（デジタル）Ⅱ：パソコン	
到達目標					
1. コンピュータなどの情報処理機器での情報処理の仕組みについて説明できる。 2. 情報処理機器の歴史を踏まえて、現代での活用法について事例を交えて示すことができる。 3. 情報ネットワーク社会の利点や問題点等について指摘できる。				⑨信号・記号処理：アナログとデジタル	
				⑩画像・音声処理：音声のデジタル化について	
				⑪画像・音声処理：静止画のデジタル化について	
				⑫画像・音声処理：動画のデジタル化について	
				⑬情報ネットワークについて	
				⑭子どもと情報環境	
				⑮情報環境の今後について	
成績評価基準					
授業態度10% 課題提出物20% 試験70%					
テキスト					
必要に応じて、資料を事前に配布ないし web を介して掲示するので、事前事後に各自確認しておくこと。					
準備学習の内容					
講義時間内に適宜指示する。					

保 1	文 学			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	—
齊木 久代				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
自らの体験、イメージを文章にして、他者に伝えるとはどういうことかについて、文学作品を通して学ぶ。			①文学の世界 「蜘蛛の糸」(芥川龍之介) 等		
			②日本の児童文学 1 「一房の葡萄」(有島武郎) 等		
			③日本の児童文学 2 「がきのめし」(壺井 栄) 等		
			④日本の児童文学 3 「鷹の巣とり」(千葉省三) 等		
			⑤日本の児童文学 4 「水仙月の四日」(宮沢賢治) 等		
			⑥振り返り 1		
			⑦絵本文学の世界 1 “ことば” の前の絵本		
			⑧絵本文学の世界 2 イメージと “ことば”		
到達目標			⑨絵本文学の世界 3 昔話絵本		
1. “ことば” や文章からイメージを再構成し、体験するとともに、自らが体験した出来事、感情、思いを言葉に置き換え、他者に伝えるとはどういうことかについて理解し、実践することができる。 2. “ことば” や認知機能が目覚ましく発達する乳幼児期に絵本や児童文学が果たす役割を理解し、説明することができる。			⑩絵本文学の世界 4 物語絵本		
			⑪振り返り 2		
			⑫空想と冒険の世界 1 「エルマーのぼうけん」 1		
			⑬空想と冒険の世界 2 「エルマーのぼうけん」 2		
			⑭空想と冒険の世界 3 「エルマーのぼうけん」 3		
			⑮振り返り 3		
成績評価基準					
授業時の参加、発表状況40点、課題レポート60点					
テキスト					
「日本児童文学名作集（下）」桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫（緑143-2）岩波書店					
準備学習の内容					
指定された作品を予め通読し、語彙の意味等について予習しておくこと。					

保 1	文 学			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	—
森 知子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
児童文学には、子どもの心的成長に寄与するものが多くある。本科目では、心理学的・教育的観点を変えながら、多様なテーマで児童文学作品を読みといていく。受講者自身が成長過程の中で出会った文学作品も取り上げ、作品の中の子ども像や子ども観を模索できるよう授業を行う。			①オリエンテーション		
			②児童文学・絵本について		
			③テーマ「誕生」		
			④テーマ「愛着」		
			⑤テーマ「葛藤・不安」		
			⑥テーマ「対人関係」		
			⑦テーマ「自己肯定感」		
			⑧テーマ「アイデンティティー」		
到達目標			⑨テーマ「自立」		
1. 文学に触れることの楽しさや意義を理解し、文学作品に対する興味や関心を持つことができる。 2. 文学作品における子ども像、子ども観を理解できる。 3. 読書レポートを作成することで、読む力、考える力、書く力を身につけることができる。			⑩テーマ「自己成長・自己実現」		
			⑪テーマ「社会性・道徳性」		
			⑫テーマ「別れ・喪失」		
			⑬テーマ「人生の転機」		
			⑭テーマ「生きる力」		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
授業への参加態度20%、授業内課題30%、レポート50%の総合点で評価する。					
テキスト					
適宜、授業で指示する。					
準備学習の内容					
授業で紹介する文学作品、配付資料を読んでおく。また、日頃から「図書館」や「おもちゃとえほんのへや」を活用し、受講者自身の興味のある文学作品に触れる機会をもつこと。					

保 1	英 語 I			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	春学期	保育士	〃
岡崎 臣博				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
ある保育園での1年間の出来事をきわめて平易な短い英文で書いたテキストを用います。入園、砂遊び、お絵かき、遠足などが登場します。これらの日常的话题にふれながら、自然な会話表現、招待状、カードの書き方もあわせて勉強します。難しい文法や構文にこだわらずに楽しく英語を勉強しましょう。			①オリエンテーション（授業内容と注意事項）		
			②「新学期」・あいさつの表現		
			③「登園」・親族名称		
			④「室内遊び」・遊びの名称		
			⑤「砂遊び」・草花の名前		
			⑥「運動場で」・けんかどけがの表現		
			⑦「昼食」・食べ物に関する表現		
			⑧「着替え」・服装に関する表現		
到達目標			⑨「お昼寝」・トイレの表現		
今まで学んできた英語を復習し、現場での生きた英語力を習得する。ある保育園での1年を、行事等を中心に英語で学び、現場で使われる英単語、表現法を習得する。上記2項目の習得により、将来、保育の現場での多岐にわたるコミュニケーションにかかわる対応力を養成する。			⑩「七夕の日」・動物の名前		
			⑪「病気」・病名と緊急の連絡表現		
			⑫文法のまとめ		
			⑬文法のまとめ		
			⑭文法のまとめ		
			⑮春学期試験対策		
成績評価基準					
期末試験の成績60%、単語テスト20%、発表点10%、授業に対する参加及び貢献度10%の総合点で評価します。					
テキスト					
森田和子「新・保育の英語」三修社 2016					
準備学習の内容					
指定した教科書の本文の単語等を事前に調べ、読んでおくこと。 各レッスン終了後、次週の単語テストに備え、単語及び熟語を覚えてくること。 各自の英語力に合わせて、本文以外の下調べもしておくこと。					

保 1	英 語 I			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	春学期	保育士	〃
神野 尚				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
ある保育園での1年間の出来事をきわめて平易な短い英文で書いたテキストを用いる。入園、砂遊び、お絵かき、遠足などが登場し、これらの日常的话题にふれながら、自然な会話表現、招待状、カードの書き方もあわせて勉強する。難しい文法や構文にこだわらずに楽しく英語を勉強できるよう講義する。			①オリエンテーション（授業内容と注意事項）		
			②「新学期」・あいさつの表現		
			③「登園」・親族名称		
			④「室内遊び」・遊びの名称		
			⑤「砂遊び」・草花の名前		
到達目標			⑥「運動場で」・けんかとかげの表現		
			⑦「昼食」・食べ物に関する表現		
			⑧「着替え」・服装に関する表現		
			⑨「お昼寝」・トイレの表現		
			⑩「七夕の日」・動物の名前		
今まで学んできた英語を復習し、現場での生きた英語力を習得する。 ある保育園での1年を、行事等を中心に英語で学び、現場で使われる英単語、表現法を習得する。 上記2項目の習得により、将来、保育の現場での多岐にわたるコミュニケーションにかかわる対応力を養成する。			⑪「病気」・病名と緊急の連絡表現		
			⑫文法のまとめ1		
			⑬文法のまとめ2		
			⑭文法のまとめ3		
			⑮春学期試験対策		
成績評価基準					
期末試験の成績60%、単語テスト20%、発表点10%、授業に対する参加および貢献度10%の総合点で評価する。					
テキスト					
森田和子「新・保育の英語」三修社 2016					
準備学習の内容					
指定した教科書の本文の単語等を事前に調べ、読んでおくこと。 各レッスン終了後、次週の単語テストに備え、単語及び熟語を覚えてくること。 各自の英語力に合わせ、本文以外の下調べもしておくこと。					

保 1	英 語 II			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	秋学期	保育士	—
岡崎 臣博				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
ある保育園での1年間の出来事をきわめて平易な短い英文で書いたテキストを用います。入園、砂遊び、お絵かき、遠足などが登場します。これらの日常的话题にふれながら、自然な会話表現、招待状、カードの書き方もあわせて勉強します。難しい文法や構文にこだわらずに楽しく英語を勉強しましょう。			①オリエンテーション（授業内容と注意事項）		
			②「運動会」・行事の案内		
			③「運動会」・スポーツに関する表現		
			④「散歩」・地図と建物の名前		
			⑤「散歩」・交通と道案内		
			⑥「手紙」・カードと絵葉書の書き方		
			⑦「雪の日」・工作とお絵かきの表現		
			⑧「連絡」・書類に関する表現		
到達目標			⑨「連絡」・連絡帳と時間に関する表現		
今まで学んできた英語を復習し、現場での生きた英語力を習得する。ある保育園での1年を、行事等を中心に英語で学び、現場で使われる英単語、表現法を習得する。上記2項目の習得により、将来、保育の現場での多岐にわたるコミュニケーションにかかわる対応力を養成する。			⑩「家庭調書」・行事の名称		
			⑪「年の終わり」・園便り		
			⑫文法のまとめ		
			⑬文法のまとめ		
			⑭文法のまとめ		
			⑮秋学期試験対策		
成績評価基準					
期末試験の成績60%、単語テスト20%、発表点10%、授業に対する参加及び貢献度10%の総合点で評価します。					
テキスト					
森田和子「新・保育の英語」三修社 2016					
準備学習の内容					
指定した教科書の本文の単語等を事前に調べ、読んでおくこと。 各レッスン終了後、次週の単語テストに備え、単語及び熟語を覚えてくること。 各自の英語力に合わせ、本文以外の下調べもしておくこと。					

保 1	英 語 II			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	—
神野 尚				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
ある保育園での1年間の出来事をきわめて平易な短い英文で書いたテキストを用いる。入園、砂遊び、お絵かき、遠足などが登場し、これらの日常的話題にあれながら、自然な会話表現、招待状、カードの書き方もあわせて勉強する。難しい文法や構文にこだわらずに楽しく英語を勉強できるよう講義する。			①オリエンテーション（授業内容と注意事項）		
			②「運動会1」・行事の案内		
			③「運動会2」・スポーツに関する表現		
			④「散歩1」・地図と建物の名前		
			⑤「散歩2」・交通と道案内		
			⑥「手紙」・カードと絵葉書の書き方		
			⑦「雪の日」・工作とお絵かきの表現		
			⑧「連絡1」・書類に関する表現		
到達目標			⑨「連絡2」・連絡帳と時間に関する表現		
今まで学んできた英語を復習し、現場での生きた英語力を習得する。 ある保育園での1年を、行事等を中心に英語で学び、現場で使われる英単語、表現法を習得する。 上記2項目の習得により、将来、保育の現場での多岐にわたるコミュニケーションにかかわる対応力を養成する。			⑩「家庭調書」・行事の名称		
			⑪「1年の終わり」・園便り		
			⑫文法のまとめ4		
			⑬文法のまとめ5		
			⑭文法のまとめ6		
			⑮秋学期試験対策		
成績評価基準					
期末試験の成績60%、単語テスト20%、発表点10%、授業に対する参加および貢献度10%の総合点で評価する。					
テキスト					
森田和子「新・保育の英語」三修社 2016					
準備学習の内容					
指定した教科書の本文の単語等を事前に調べ、読んでおくこと。 各レッスン終了後、次週の単語テストに備え、単語及び熟語を覚えてくること。 各自の英語力に合わせ、本文以外の下調べもしておくこと。					

保 1	英語コミュニケーション			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	春学期	保育士	—
原 真和				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
世界には、英語を母語とする人々も少なくないが、多くの人々が外国語として学び、使っている。英語が使えると、日本語を理解しない人々の役に立つ機会も少なくないだろう。この授業では、可能な限り英語だけを使い、基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。				① About this class	
				② Getting to know each other	
				③ Talking about yourself	
				④ Talking about family	
				⑤ Talking about people	
				⑥ Talking about past experiences	
				⑦ Talking about interests	
				⑧ 口頭テスト	
到達目標				⑨ Talking about experiences	
(1) 英語での質問に英語で答えられるようになること。 (2) 自分の状況や考えを英語で言うことができるようになること。 (3) 様々な英語の母音と子音の区別がつくようになること。				⑩ Talking about places	
				⑪ Talking about Japan	
				⑫ Talking about school	
				⑬ Talking about sickness and health	
				⑭ Travel English	
				⑮ Preparation for the exam 期末口頭試験	
				成績評価基準	
授業中の英語での発言 (30%)、口頭小テスト (20%)、期末口頭試験 (50%)					
テキスト					
David Martin, <i>Talk a Lot, Book One</i> , EFL Press, 2003.					
準備学習の内容					
次回の授業のテーマについて英語で話すことを準備する。					

保 1	スポーツと健康教育 I			卒 業	選択
				幼二種	必修
	1 単位	実技	春学期 or 秋学期	保育士	〃
栗原 栄				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
生涯スポーツ社会を生きるために必要とされる健康づくりの三要素「栄養」「運動」「休養」をトータルに考える力、特に運動の重要性の認識、継続のための創意工夫、仲間作り等について考える。学校や地域社会においても生涯スポーツを実践できるような学習力の育成を目指す。				①オリエンテーション	
				②短縄・長縄	
				③バドミントン・卓球（基本）	
				④バドミントン・卓球（ゲーム）	
				⑤キックベースボール（基本）	
				⑥キックベースボール（ゲーム）	
				⑦バレーボール（基本）	
				⑧バレーボール（ゲーム）	
				⑨バレーボール（ゲーム）	
				⑩バスケットボール（基本）	
到達目標				⑪バスケットボール（ゲーム）	
1. 各運動種目についてその起源とその後の発展について学ぶ。 2. 個人的・集団的スポーツを体験し、それぞれの基本的知識を習得する。 3. ゲームの展開により、審判法・試合運営について学ぶ。 4. 種目の特性を理解し、特性に応じたルールであることを体験する。				⑫バスケットボール（ゲーム）	
				⑬フットサル（基本）	
				⑭フットサル（ゲーム）	
				⑮まとめ	
成績評価基準					
授業への参加態度40%、レポート提出30%、運動技能30%の総合点で評価する。					
テキスト					
必要に応じてプリント配布					
準備学習の内容					
授業計画に基づき、現代社会で行われているスポーツ全般の意義、スポーツの役割、国際理解等を書籍やメディアによって学習する。					

保 1	教 師 論			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	〃
碓氷 ゆかり・吉岡 眞知子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育者としての専門性と資質について理解し、自らの保育者像を明確にしていくことを目的に、保育者の役割と倫理および制度的位置づけ、保護者や専門機関との連携のあり方、現代社会において求められている多様な保育、保育支援について講義する。			①保育・教育の目的（幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園）		
			②教職の意義および保育者の役割		
			③保育者の役割と倫理		
			④保育者としての免許・資格①（学習課程）		
			⑤保育者としての免許・資格②（要件・責務）		
			⑥保育者の職務内容（研修、服務および身分保障）		
			⑦保育者と法		
			⑧進路選択に資する各種の機会の提供（講演）		
			⑨保育者に求められる資質・能力		
⑩保育者に求められる知識・技術および判断					
⑪多様化する保育ニーズに対する認識					
⑫保育課程・教育課程による保育の展開と自己評価					
⑬保育者の協働①（保護者および地域社会との連携）					
⑭保育者の協働②（専門職間および専門機関との連携）					
⑮保育者としての成長（専門性の発達、生涯発達とキャリア形成）					
到達目標					
1. 保育者の役割と倫理および保育者の制度的位置づけについて理解し、説明できるようになる。					
2. 保育者に求められる資質・能力および専門性について理解し、主体的に考えることができるようになる。					
3. 保育者が行う保護者や専門機関との連携・協働について理解し、説明できるようになる。					
成績評価基準					
定期試験50%（授業で取り上げた内容について筆記試験を定期試験中に実施する）					
小テスト10%（授業期間中に、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の違いについての学修到達度を確認するテストを実施する）					
平常点40%（毎回のレスポンスペーパー20%、授業への参加度20%）					
テキスト					
民秋言編「保育者論」建帛社 2015					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。					

保 1	発達心理学			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
齊木 久代				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育は、子どもたちの発達に寄り添い、見守り、援助する営みである。本講では、そのために理解が必要とされる人間の発達の過程とその特徴について学ぶとともに、子どもの発達に果たす保育者の役割について理解を目指す。授業は、右記のトピックについて行う予定である。ビデオ教材も随時用いる。			①発達心理学とは		
			②発達するとはどういうことか		
			③胎生期における育ち		
			④新生児期における育ち		
			⑤乳児期における身体的育ち		
			⑥乳児期における自我と社会性の育ち		
			⑦乳児期における認識の育ち		
			⑧幼児期前期における身体的育ち		
到達目標			⑨幼児期前期における自我と社会性の育ち		
保育者として必要とされる発達心理学の基本的な概念・知識を習得し、説明することができる。			⑩幼児期前期における言葉と認識の育ち		
			⑪幼児期後期における身体的育ち		
			⑫幼児期後期における自我と社会性の育ち		
			⑬幼児期後期における言語と認識の育ち		
			⑭生涯発達と課題		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験70％、授業への参加状況（質疑応答、課題）30％					
テキスト					
資料を配布するとともに、参考文献をその都度紹介する。					
準備学習の内容					
配布資料、参考文献を用いて、予習・復習をしておくこと					

保 1	教育心理学			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	〃
齊木 久代				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本講では、教育、保育という対人的交わりにおける「発達」と「学習」の過程について学ぶとともに、個人差と適応についての理解を深めることを目標とする。授業は、右記のトピックについて行う予定である。ビデオ教材も随時用いる。			①教育心理学とは		
			②発達とは		
			③発達と初期学習		
			④学習とは		
			⑤学習のメカニズム（過程）を理解する 1（古典的条件づけ）		
			⑥学習のメカニズム（過程）を理解する 2（オペラント条件づけ）		
			⑦学習のメカニズム（過程）を理解する 3（認知過程）		
			⑧動機づけ		
			⑨情動とは		
			⑩情動が果たす役割		
到達目標			⑪自らを理解する		
保育者として必要とされるヒトの心身の発達と学習の過程および関連する個人差（障害のある場合を含む）について基本的な知識、理論を理解し、説明し、応用することができる。			⑫パーソナリティとは		
			⑬発達と学習の過程における子どもの個人差、障害の理解とその援助 1（認知能力等）		
			⑭発達と学習の過程における子どもの個人差、障害の理解とその援助 2（対人関係）		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験60%、授業への参加状況（質疑応答、課題）40%					
テキスト					
資料を配布するとともに、参考文献をその都度紹介する。					
準備学習の内容					
配布資料、参考文献等を用いて、予習・復習をしておくこと					

保 1	障害児保育			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	秋学期	保育士	必修
橋 実千代				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
本科目は、障害のある子どもへの対応や保育方法、障害がある子どもの保護者に対する支援について理解を深め、保育を実践する力を養うことを目的とする。障害児保育の理念や歴史的変遷、各障害の概要と援助の方法、幼稚園・保育所と関係機関との連携、保護者支援のあり方について講義する。				①特別支援教育を支える理念	
				②発達障害をもつ子どもへのまなざし	
				③知的障害の理解、保育への配慮と個別支援	
				④発達障害の理解	
				⑤自閉症スペクトラムの理解、保育への配慮と個別指導	
				⑥学習障害の理解、保育への配慮と個別支援	
				⑦ AD／HD の理解、保育への配慮と個別支援	
				⑧問題行動—概要と保育への配慮・支援	
到達目標				⑨視覚障害・聴覚障害の理解と援助	
1. 障害児保育の基本的理念や現状の課題についての知識を学び、他者、特に社会的弱者に対しての理解と共感する力を身につけることができる。 2. 各障害についての概要を理解し、障害がある子どもへの援助の方法や環境構成等について学び、また、保育に必要な支援教材を考え、障害がある子どもを含む保育の実践力を養うことができる。 3. 保護者支援の方法や関係機関との連携のあり方について理解することができる。				⑩運動障害の理解と援助	
				⑪子どもの発達評価と他機関との連携	
				⑫保育方法と環境構成について・事例研究の方法	
				⑬保護者の理解とその支援	
				⑭障害児を取り巻く現状と課題	
				⑮まとめ	
成績評価基準					
定期試験（50％）、課題図書についてのレポートを作成し、提出する（20％）。事前学習課題についての提出物（20％）。平常点（10％）					
テキスト					
西村重稀・水田敏郎編「障害児保育」中央法規 2016					
準備学習の内容					
毎回事前に指定したテキストの箇所を読んで授業に臨むこと。					

保 1	障害児保育			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	秋学期	保育士	必修
馬場 耕一郎				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、障害のある子どもへの対応や保育方法、障害がある子どもの保護者に対する支援について理解を深め、保育を実践する力を養うことを目的とする。障害児保育の理念や歴史の変遷、各障害の概要と援助の方法、幼稚園・保育所と関係機関との連携、保護者支援のあり方について講義する。			①特別支援教育を支える理念		
			②発達障害をもつ子どもへのまなざし		
			③知的障害の理解、保育への配慮と個別支援		
			④発達障害の理解		
			⑤自閉症スペクトラムの理解、保育への配慮と個別指導		
			⑥学習障害の理解、保育への配慮と個別支援		
			⑦ AD/HD の理解、保育への配慮と個別支援		
			⑧問題行動—概要と保育への配慮・支援		
到達目標			⑨視覚障害・聴覚障害の理解と援助		
1. 障害児保育の基本的理念や現状の課題についての知識を学び、他者、特に社会的弱者に対しての理解と共感する力を身につけることができる。			⑩運動障害の理解と援助		
			⑪子どもの発達評価と他機関との連携		
2. 各障害についての概要を理解し、障害がある子どもへの援助の方法や環境構成等について学び、また、保育に必要な支援教材を考え、障害がある子どもを含む保育の実践力を養うことができる。			⑫保育方法と環境構成について・事例研究の方法		
			⑬保護者の理解とその支援		
3. 保護者支援の方法や関係機関との連携のあり方について理解することができる。			⑭障害児を取り巻く現状と課題		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験（50%）、課題図書についてのレポートを作成し、提出する（20%）。事前学習課題についての提出物（20%）。平常点（10%）					
テキスト					
西村重稀・水田敏郎編「障害児保育」中央法規 2016					
準備学習の内容					
毎回事前に指定したテキストの箇所を読んで授業に臨むこと。					

保 1	社会的養護内容			卒 業	選択
				幼二種	一
	1 単位	演習	秋学期	保育士	必修
波田埜 英治				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について解説し、施設養護及び他の社会的養護の実践について講義する。そして、個々の児童に応じた自立支援計画を作成し、日常生活の支援や治療的支援等の内容を説明する。また、社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について講義する。			①子どもの養護と保育士		
			②施設養護と家庭的養護		
			③子どもの権利擁護		
			④施設養護のプロセスの理解（求められる視点）		
			⑤施設養護のプロセスの理解（展開内容とその留意点）		
			⑥保育士の基本的な養護援助・支援（日常生活援助）		
			⑦保育士の基本的な養護援助・支援（生活プログラム作成）		
			⑧心の援助		
到達目標			⑨親子関係の援助（援助の姿勢）		
1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解し、施設養護及び他の社会的養護の実践について習得する。			⑩親子関係の援助（チームアプローチ）		
			⑪地域・学校との関係づくり・整備の援助		
2. 個々の児童に応じた自立支援計画を作成し、日常生活の支援や治療的支援等を習得する。			⑫自己実現・自立への支援・援助（自立支援の意味）		
			⑬自己実現・自立への支援・援助（自立支援計画）		
3. 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術を理解する。			⑭社会的養護施設の運営管理		
			⑮社会的養護施設における保育士の資質と倫理		
成績評価基準					
定期テスト50%、受講態度、提出物、出席等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
辰己隆・岡本真幸編著「保育士をめざす人の社会的養護内容」(株)みらい 2016年					
準備学習の内容					
①社会的養護の教科内容を復習しておくこと。					
②ソーシャルワークの直接援助技術を復習しておくこと。					

保 1	社会的養護内容			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	秋学期	保育士	必修
立花 直樹				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について解説し、施設養護及び他の社会的養護の実際について講義する。そして、個々の児童に応じた自立支援計画を作成し、日常生活の支援や治療的支援等の内容を説明する。また、社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について講義する。			①子どもの養護と保育士		
			②施設養護と家庭的養護		
			③子どもの権利擁護		
			④施設養護のプロセスの理解（求められる視点）		
			⑤施設養護のプロセスの理解（展開内容とその留意点）		
			⑥保育士の基本的な養護援助・支援（日常生活援助）		
			⑦保育士の基本的な養護援助・支援（生活プログラム作成）		
			⑧心の援助		
到達目標			⑨親子関係の援助（援助の姿勢）		
1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解し、施設養護及び他の社会的養護の実際について習得する。 2. 個々の児童に応じた自立支援計画を作成し、日常生活の支援や治療的支援等を習得する。 3. 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術を理解する。			⑩親子関係の援助（チームアプローチ）		
			⑪地域・学校との関係づくり・整備の援助		
			⑫自己実現・自立への支援・援助（自立支援の意味）		
			⑬自己実現・自立への支援・援助（自立支援計画）		
			⑭社会的養護施設の運営管理		
			⑮社会的養護施設における保育士の資質と倫理		
			成績評価基準		
小テスト（授業期間中に3回実施する）50%、受講態度、提出物等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
「保育士をめざす人の社会的養護内容」(株)みらい					
準備学習の内容					
①社会的養護の教科内容を復習しておくこと。 ②ソーシャルワークの直接援助技術を復習しておくこと。					

保 1	保育原理Ⅰ－A			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
橘 実千代				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育に関する理念、保育の意義や目的、保育の内容、保育の環境、保育の思想や歴史、現在の保育制度、諸外国の保育など、保育に関する基本的な知識について講義し、保育者としての基礎を学ぶことを目的とする。また、今日の保育の現状と課題について講義する。さらに、保育所保育指針に示された保育の基本について説明を行う。			①保育の理念と目的		
			②子ども観・保育観		
			③保育の社会的意義		
			④保育の内容 生活と遊び		
			⑤保育の内容 個と集団		
			⑥保育の内容 保育計画		
			⑦保育の思想と歴史（諸外国）		
			⑧保育の思想と歴史（日本）		
到達目標			⑨諸外国の保育の現状と課題		
1. 保育者として必要な保育の基礎的な理論や概念を理解し、保育者の役割を説明することができる。 2. 保育の内容、保育の環境、保育の思想や歴史などについて理解し、保育実践の場面において、保育に関する知識を確認し、保育について考察することができるようになる。 3. 保育所保育指針に示された保育の基本について理解を深め、保育者としての専門性について考えを深める。			⑩日本の保育制度の現状と課題（幼稚園保育の変遷）		
			⑪日本の保育制度の現状と課題（保育所保育の変遷）		
			⑫保育所保育指針における保育の基本		
			⑬保護者支援		
			⑭保育士の専門性		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験50%、小テスト30%（授業期間中に学修到達度を確認するテストを1回実施する） 平常点20%					
テキスト					
柏原栄子・渡辺のゆり編「新現代保育原理」建帛社 2016 保育福祉小六法編集委員会編「保育福祉小六法 2017年度版」(株)みらい 2017					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、授業に参加すること。					

保 1	音 楽 I			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	1 単位	演 習	春学期	保育士	—
高田 正久・山内 信子・稲葉 綾・宇都宮正人・奥村 薫・白倉 朋子・ 玉川 文子・深田 直子・丸尾喜久子・山鹿 その・渡邊康一郎				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
保育者は、子どもたちの音楽表現を援助し展開していくために、音楽の基礎知識や技能の習得を通じて、豊かな音楽性を育むことが求められます。そのため、本科目では保育実践の場で必要とされるピアノ演奏技術や歌唱力を身につけること、さらに簡単な弾き歌いの力を養うことを目的としています。				①音楽理論の基礎について	
				②ピアノ演奏における運指法について	
				③ピアノによるリズム活動について	
				④ピアノによるリズム活動曲 マーチについて	
				⑤ピアノによるリズム活動曲 ランについて	
				⑥ピアノによるリズム活動曲 ギャロップについて	
				⑦ピアノによるリズム活動曲 スキップについて	
				⑧ピアノによるリズム活動曲 スイングについて	
到達目標					
1. 保育の活動に用いられるリズム活動曲（マーチ、スキップ、ラン等）の特徴を理解する事が出来る。 2. ピアノ演奏の技術を習得し、安定した演奏が出来る。 3. 弾き歌いの技能について理解する。				⑨こどもの歌の弾き歌いについて	
				⑩伴奏法について	
				⑪弾き歌い わらべうた	
				⑫弾き歌い あそびうた	
				⑬弾き歌い 季節のうた	
				⑭ペダルの使い方	
				⑮まとめ（実技テストに向けた試演と鑑賞）	
成績評価基準					
実技試験80％、平常点20％（授業における修得曲数、授業内の提出物、授業参加態度等）					
テキスト					
関西学院、聖和短期大学編「保育者のためのピアノ曲集」共同音楽出版社 2017 小林美実編「音楽リズム」東京書籍 2014 等					
準備学習の内容					
日頃より課題のピアノ曲及び弾き歌い曲などを良く練習しておく事。レパートリーを出来るだけ増やせるように努力すること。					

保 1	音 楽 II			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	秋学期	保育士	—
高田 正久・山内 信子・稲葉 綾・宇都宮正人・奥村 薫・白倉 朋子・ 玉川 文子・深田 直子・丸尾喜久子・山鹿 その・渡邊康一郎				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
保育者は、子どもたちの音楽表現を援助し展開していくために、音楽の基礎知識や技能の習得を通じて、豊かな音楽性を育むことが求められます。そのため、本科目では「音楽Ⅰ」を受講した学生が、保育実践の場で必要とされるピアノ演奏技術や歌唱力を身につけること、さらに簡単な弾き歌いのコード伴奏法や初見の力を養うことを目的としています。				①保育に必要なピアノ演奏について	
				②リズム活動曲における変奏技術について	
				③ピアノ演奏と変奏法 4 拍子の曲	
				④ピアノ演奏と変奏法 2 拍子の曲	
				⑤ピアノ演奏と変奏法 3 拍子の曲	
				⑥ピアノ演奏と変奏法 8 分の 6 拍子の曲	
				⑦ピアノ演奏と変奏法 連弾の曲	
				⑧ピアノ演奏と変奏法 コード伴奏法について	
到達目標					
1. 保育で用いられるピアノ曲を人前でスムーズに演奏できる。				⑨弾き歌い 園生活や行事の歌	
2. 子どもの歌の弾き歌いを人前でスムーズに演奏できる。				⑩弾き歌い 季節の歌（春、夏）	
3. 弾き歌いの初見演奏法を身につける。				⑪弾き歌い 季節の歌（秋、冬）	
				⑫弾き歌い いろいろな活動の歌	
				⑬弾き歌い初見のポイントについて	
				⑭弾き歌い初見演奏	
				⑮まとめ（実技テストに向けた試演と鑑賞）	
成績評価基準					
実技試験80%、平常点20%（授業における修得曲数や授業内の提出物、授業参加態度等）					
テキスト					
関西学院、聖和短期大学編「保育者のためのピアノ曲集」共同音楽出版社 2017 小林美実編「音楽リズム—幼児のうた楽譜集」東京書籍 2014 等					
準備学習の内容					
日頃より課題のピアノ曲及び弾き歌い曲などを良く練習しておく事。レパートリーを出来るだけ増やせるように努力すること。					

保 1	美 術			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	秋学期	保育士	〃
青木 宏子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
子どもの造形活動・絵画製作に関わっていく保育者として、必要な知識や理論について実践を通して学習する。その中で、学生自身が創作活動の喜びや楽しさを感じることができ、それが幼児の心情に共感していく感性、資質となるよう、自己の体験を深めることを目的とする。				①オリエンテーション	
				②描画（大きく元気に）～チョークで描こう～	
				③おもちゃに触れる	
				④表現技法研究①	
				⑤表現技法研究②	
				⑥表現技法研究③	
				⑦表現技法研究④	
				⑧表現技法研究⑤	
到達目標				⑨表現技法研究⑥	
1. 美術や造形の表現技法を知り、専門的知識や技術を体得することができる。 2. 素材や道具に触れることを通して、表現にかかわる保育や子どもを見つめなおすことができるようになる。				⑩表現技法研究⑦	
				⑪表現技法研究⑧	
				⑫自由製作～いろいろな素材・製作方法を試す～①	
				⑬自由製作～いろいろな素材・製作方法を試す～②	
				⑭自由製作～いろいろな素材・製作方法を試す～③	
				⑮まとめの講義	
成績評価基準					
提出物は上手・下手ではなく、いかに工夫したか、努力したかを計画性、内容、取組姿勢として評価する。 作品の提出70％、授業への参加度30％					
テキスト					
中川香子・清原知二編「保育内容 表現」みらい出版 2010					
準備学習の内容					
次回行う内容について、資料等を調べて予習しておくこと。					

保 1	美 術			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	〃
平野 真紀				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
美術の基礎・基本的な技能を身につけ、さらにそれを応用するために必要な展開の方法についても学習する。その中で学習者自身が創作活動の喜びや楽しさを感じ、それが乳幼児の心情に共感していく感性・資質となることを学ぶ。			①オリエンテーション		
			②描画（大きく元気に）～チョークで描こう～		
			③表現技法研究①		
			④表現技法研究②		
			⑤表現技法研究③		
			⑥表現技法研究④		
			⑦表現技法研究⑤		
			⑧表現技法研究⑥		
到達目標			⑨表現技法研究⑦		
1. 美術や造形の表現技法を知り、専門的知識や技術を体得することができる。 2. 素材に触れることを通して、表現に関わる保育や子どもを見つめなおすことができるようになる。			⑩表現技法研究⑧		
			⑪自由制作～いろいろな素材・制作方法を試す～①		
			⑫自由制作～いろいろな素材・制作方法を試す～②		
			⑬自由制作～いろいろな素材・制作方法を試す～③		
			⑭自由制作～いろいろな素材・制作方法を試す～④		
			⑮まとめの講義		
成績評価基準					
提出物は上手・下手ではなく、いかに工夫したか、努力したかを計画性、内容、取組姿勢として評価する。 作品の提出70%、授業への参加度30%					
テキスト					
中川香子・清原知二編「保育内容 表現」みらい出版 2010					
準備学習の内容					
次回行う内容について、資料等を調べて予習しておくこと。					

保 1	体 育			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	秋学期	保育士	〃
坂口 将太				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
私たちが生きていくには健康な身体が必要である。乳幼児期は身体を通して多くの事柄を経験し、様々な能力や機能を発達させる時期である。本科目では、子どもの「運動」や「遊び」を自らの身体を通して考え、保育者に求められる「運動」や「遊び」に関する知識や技能を学ぶ。また、実際に保育者の立場に立って「運動」や「遊び」を実施し、乳幼児に対する関わり方や対処方法を学ぶ。			①オリエンテーション		
			②鬼ごっこ① 活発な運動を考慮した鬼ごっこ		
			③鬼ごっこ② 思考と行動を考慮した鬼ごっこ		
			④マット運動		
			⑤跳び箱		
			⑥鉄棒・担当グループによる模擬保育		
			⑦ボール遊び・担当グループによる模擬保育		
			⑧フープを使った遊び・担当グループによる模擬保育		
到達目標			⑨短なわ・担当グループによる模擬保育		
1. 体育の意義について理解し、保育者に求められる運動や遊びに関わる知識や技能について説明できる。 2. 子どもの発達発達に合わせた運動や遊びを提案できる。 3. 子どもの行動に合わせた指導・援助ができる。 4. 運動や遊びを実施する上での準備や安全管理について、事例を交えて説明できる。			⑩長なわ・担当グループによる模擬保育		
			⑪ゲーム① 小人数・担当グループによる模擬保育		
			⑫ゲーム② 多人数・担当グループによる模擬保育		
			⑬サーキット運動について・担当グループによる模擬保育		
			⑭幼児の運動能力について		
			⑮ニュースポーツについて		
成績評価基準					
授業態度 5 % 課題提出物10% 実技評価35% レポート50%（模擬保育の内容について）					
テキスト					
特になし。					
準備学習の内容					
幼児の運動遊びの種類や方法、運動遊びの意義などを事前に調べておくこと。					

保 1	体 育			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	〃
山崎 春人				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
私たちが生きているのは身体という場である。乳幼児期における、すべてのことがらは、その身体を通して行なわれ、様々な機能や能力を発達させていく。そこに関わる「あそび」「運動」について、実践的に学び保育者に必要な身体について学ぶことを目的とする。			①オリエンテーション		
			②鬼ごっこⅠ（追いかけごっこから、鬼ごっこ）		
			③鬼ごっこⅡ（バリエーション）		
			④マットあそび		
			⑤とび箱あそび		
			⑥鉄棒		
			⑦ボール		
			⑧フープ		
到達目標					
1. 体育のもつ意味について知り保育者として必要な体力や身体について理解できるようになる。 2. 子どもの運動あそびの指導の上で、器具用具の使い方や、補助の仕方を身に付ける。			⑨短なわ		
			⑩長なわ		
			⑪ゲーム、レクリエーション		
			⑫サーキット		
			⑬ボールゲーム		
			⑭インシャティブゲーム		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
授業への参加度（50％）及びレポートを含むノートの作成（50％）により評価する。					
テキスト					
特になし。プリントを配布。					
準備学習の内容					
授業ごとのノートを作成すること。					

保 1	保育表現技術			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	秋学期	保育士	必修
持田 葉子・丸尾 喜久子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育における子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な、知識や技術を習得することを目的とする。音楽表現活動（歌う、動く、聴く、奏でる等）を通して、子どもの感性や表現する力、さらに創造性を育ていくために、発達を踏まえた具体的な援助の方法や環境構成について知り、実践につながる力を身に付ける。また、演習を通して自らの感性や表現力を磨くことを目指す。			①領域「表現」について、乳幼児期の発達と音楽表現		
			②子どもの歌の指導法について		
			③手遊びについて		
			④わらべうた遊びの特徴とその意義（乳児期のわらべうた遊び）		
			⑤わらべうた遊びの特徴とその意義（幼児期のわらべうた遊び）		
			⑥動きによる表現（身体によるリズム活動の意義と基本的な動き）		
			⑦動きによる表現（身体によるリズム活動の意義と表現的な動き）		
			⑧動きと音による表現（動きの伴奏方法）		
到達目標			⑨動きと音による表現（動きのための題材研究）		
1. 子どもの発達における音楽表現の意義について説明できる。 2. 子どもの発達や興味を踏まえた音楽表現活動案を提示できる。 3. 立案したものを模擬的な保育場面で実践できる。			⑩動きと音による表現（身体によるリズム活動・グループ発表）		
			⑪音への感性を育む環境づくり		
			⑫音による表現（手作り楽器の意味と制作）		
			⑬音による表現（ドラムサークル）		
			⑭音による表現（保育における楽器）		
			⑮音による表現（合奏への展開）		
成績評価基準					
平常点50％（授業時の実技発表や参加態度20％、課題提出物30％）試験50％の総合点で評価する。					
テキスト					
小林美実編「音楽リズム―幼児のうた楽譜集」東京書籍 2014					
準備学習の内容					
日頃から手遊び、わらべうた遊び、子どもの歌などを調べ練習しておく。 また生活や遊びの中に見られる子どもの音楽的な表現について意識して観察する。					

保 1	保育課程総論			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	〃
碓氷 ゆかり				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本講義では、子どもの姿をしっかりと捉え、願いをもちながら指導計画の立案をすることを目的に、歴史や思想をふまえて、教育課程・保育課程の意義および編成の方法について講義し、指導計画の作成の仕方について具体的に指導する。			①保育における計画と評価の基本		
			②教育課程・保育課程の意義		
			③教育課程・保育課程の歴史的変遷		
			④幼稚園における教育課程の意義		
			⑤幼保連携型認定こども園における教育課程・全体的な計画の意義		
			⑥幼稚園教育要領における教育課程、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育課程・全体的な計画の編成と指導計画		
			⑦保育所における保育課程の意義		
到達目標			⑧保育所保育指針における保育課程の編成と指導計画		
1. 教育課程・保育課程の意義および歴史的変遷について理解し、説明できるようになる。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成の方法について理解する。 3. 指導計画を所定の書式にそって必要な項目を入れて立案できるようになる。			⑨計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上		
			⑩指導計画の作成と作成上の留意事項①（長期指導計画）		
			⑪指導計画の作成と作成上の留意事項②（短期指導計画）		
			⑫指導計画の実際の作成と展開①（指導計画の立案）		
			⑬指導計画の実際の作成と展開②（事例を通した学び）		
			⑭指導計画の実際の作成と展開③（指導計画の再編成）		
			⑮指導計画の実際の作成と展開④（事例を通した学び）		
成績評価基準					
定期試験50%（授業で取り上げた内容についての筆記試験を定期試験中に実施する） レポート10%（指導計画案についてのレポートを作成し、提出する。指導計画案についての学修到達度について評価する） 平常点40%（毎回のレスポンス20%、授業への参加度20%）					
テキスト					
千葉武夫・那須信樹（編）「教育課程・保育課程論」中央法規 2016 フレーベル館「幼稚園教育要領解説」文部科学省 2017 フレーベル館「保育所保育指針解説書」厚生労働省 2017 フレーベル館「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。					

保 1	保育内容 環境			卒 業	選択
				幼二種	必修
				保育士	〃
坂口 将太				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
子どもの成長には生活や遊びの環境が大きく影響している。そして、子どもを取りまく多様な環境は年々変容している。それらをふまえ、本科目では、子どもの好奇心や探究心を育むための環境や指導法について学ぶことを目的とし、保育の現場における環境構成について事例を取り上げながら講義する。				①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定型こども園・保育要領における保育内容「環境」とは	
				②好奇心や探究心を育てる保育	
				③人的環境について	
				④物的環境について	
				⑤園内環境（園具・道具・素材）について	
				⑥自然環境とは	
				⑦草花の栽培	
				⑧身近な動物	
到達目標				⑨小動物の飼育	
				⑩環境教育	
1. 保育内容の「環境」のねらいと内容について説明できる。 2. 子どもの好奇心や探究心を育む環境について、事例をあげて示すことができる。 3. 保育現場における安全環境について、事例を見て配慮すべき点を指摘できる。				⑪保育者の役割	
				⑫日常生活の中の興味関心	
				⑬地域や行事との関わり	
				⑭乳幼児期の安全環境	
				⑮リスクマネジメントの視点を持つ保育	
成績評価基準					
平常点（授業への参加態度20％、課題提出物30％）、試験50％とする。					
テキスト					
田尻由美子他「保育内容 子どもと環境―基本と実践事例―」同文書院 2010 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 他、後日指定					
準備学習の内容					
学内外の植物の生長や変化、身近な小動物に関心を寄せ、意識してそれらを見るようにすること。 今回の授業範囲を示すので、テキストを毎回よく読んでくること。					

保 1	保育内容 環境			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	春学期	保育士	〃
持田 葉子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
子どもの成長には生活や遊びの環境が大きく影響している。そして、子どもを取りまく多様な環境は年々変容している。それらをふまえ、本科目では、子どもの好奇心や探究心を育むための環境や指導法について学ぶことを目的とし、保育の現場における環境構成について事例を取り上げながら講義する。			①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」について		
			②好奇心や探究心を育てる保育		
			③人的環境について		
			④物的環境について		
			⑤園内環境（園具・道具・素材）について		
			⑥自然環境とは		
			⑦草花の栽培		
			⑧身近な動物		
			⑨小動物の飼育		
			⑩環境教育と指導法		
			⑪保育者の役割		
			⑫日常生活の中の興味関心		
			⑬地域や行事との関わり		
			⑭乳幼児期の安全環境		
			⑮リスクマネジメントの視点を持つ保育		
到達目標					
1. 保育内容「環境」のねらいと内容について説明できる。					
2. 子どもの好奇心や探究心を育む環境について、事例をあげて示すことができる。					
3. 保育現場における安全環境について、事例を見て配慮すべき点を指摘できる。					
成績評価基準					
平常点（授業への参加態度20％、課題提出物30％）、試験50％とする。					
テキスト					
田尻由美子他「保育内容 子どもと環境―基本と実践事例―」同文書院 2010					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省 2008					
「保育所保育指針解説書」厚生労働省 2008					
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 2015					
準備学習の内容					
学内外の植物の生長や変化、身近な小動物に関心を寄せ、意識してそれらを見るようにすること。 今回の授業範囲を示すので、テキストを毎回よく読んでくること。					

保 1	保育内容 環境			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	春学期	保育士	々
前田 佳代子				認ベビ	々
				児二級	々
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
子どもの成長には生活や遊びの環境が大きく影響している。そして、子どもを取り巻く多様な環境は年々変容している。それらを踏まえ、本科目では、子どもの好奇心や探究心を育むための環境や指導法について学ぶことを目的とし、保育の現場における環境構成について事例を取り上げながら講義する。			①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」とは		
			②好奇心や探究心を育てる保育		
			③人的環境について		
			④物的環境について		
			⑤園内環境（園具・遊具・素材）について		
			⑥自然環境とは		
			⑦草花の栽培		
			⑧身近な動物		
到達目標			⑨小動物の飼育		
1. 保育内容「環境」のねらいと内容について説明できる。 2. 子どもの好奇心や探究心を育む環境について、事例をあげて示すことができる。 3. 保育現場における安全環境について、事例を見て配慮すべき点を指摘できる。			⑩環境教育		
			⑪保育者の役割		
			⑫日常生活の中の興味関心		
			⑬地域や行事との関わり		
			⑭乳幼児期の安全環境		
			⑮リスクマネジメントの視点を持つ保育		
成績評価基準					
平常点（授業への参加態度20％、課題提出物30％）、試験50％とする。					
テキスト					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 他、後日指定					
準備学習の内容					
学内外の植物の生長や変化、身近な小動物に関心を寄せ、意識してそれらを見るようにすること。 今回の授業範囲を示すので、テキストを毎回よく読んでくること。					

保 1	保育内容 健康			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	春学期	保育士	〃
山崎 春人				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
「健康」は幼児期の生活の基盤となる領域であり、心身の健康があそびやその後の成長にとってとくに大切なものである。そのためにも健康に対する理解を深め、健康や安全の為の実践、保育者の係わりについて考えることがねらいである。			①健康とは		
			②領域「健康」について		
			③子どもの発育・発達と健康Ⅰ（心と体）		
			④子どもの発育・発達と健康Ⅱ（脳を中心として）		
			⑤環境と健康		
			⑥自然と健康		
			⑦遊びと健康		
			⑧運動と健康		
			⑨遊具・用具と健康		
到達目標			⑩食と健康		
保育内容健康に関する基礎的な知識を習得すると同様に、身体活動や健康の為の活動など、子どもと具体的に関わって行く為の知識や技能を習得する。			⑪演習（事例研究）		
			⑫演習（事例研究）		
			⑬運動とあそび		
			⑭生活と健康		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
試験60％、授業への参加度40％で評価する。					
テキスト					
最新保育講座⑦ 河邊貴子・紫崎正行・杉原隆編「保育内容『健康』」ミネルヴァ書房 2009					
準備学習の内容					
幼稚園教育要領、保育所保育指針を十分に読んでおくこと。					

保 1	保育内容 言葉			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	春学期	保育士	〃
讃岐 京子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
子どもは、人やものとかかわりのなかで言葉を獲得していく。乳幼児期に子どもたちの言葉が豊かに育つように、保育者はどのように子どもとともに環境を構成し、かかわっていけばよいのか援助のあり方を学び、言葉の世界への導き手として、実践につながる具体的な内容について習得する。			①オリエンテーション		
			②子育てと言葉		
			③保育の基本と領域「言葉」（１）領域「言葉」がめざしているもの		
			④保育の基本と領域「言葉」（２）小学校「国語科」との関係について		
			⑤乳幼児期の言葉の発達過程（１）一語文以前（言葉以前）		
			⑥乳幼児期の言葉の発達過程（２）話し言葉		
			⑦乳幼児期の言葉の発達過程（３）書き言葉		
到達目標			⑧乳児の言葉を育てる環境とかかわり		
1. 言葉について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にそって考え、基礎的な知識を習得する。 2. 言葉の発達の側面を理解し、内容を説明できるようにになる。 3. 言葉を育てる環境の構成やかかわりの援助を、説明できるようにになる。 4. 子どもが言葉を通してイメージがもてるよう、保育技術を身につける。			⑨話し言葉、書き言葉を育てる環境とかかわり		
			⑩言葉を育てる児童文化財（意味と重要性）		
			⑪言葉を育てる児童文化財（お話、詩等）		
			⑫言葉を育てる児童文化財（紙芝居、人形劇等）		
			⑬子どもと絵本		
			⑭言葉の育ちにかかわる諸課題		
			⑮ふりかえりとまとめ		
成績評価基準					
定期試験50%、課題の実技発表（①お話を語る②道具を使って語る）30%、平常点（絵本の読み聞かせ等授業への参加度、参加態度など）20%の総合点で評価する。					
テキスト					
小田豊・芦田宏編著「保育内容言葉」北大路書房 2015 「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省					
準備学習の内容					
・ 事前に「絵本のリスト」から絵本を選び、読んでおく。 ・ 物語のお話をおぼえ、語られるようにしておく。 ・ 短いお話又は詩の内容に関する道具（手使い人形等）を作り、それを使用して語られるようにしておく。					

保 1	保育内容 表現			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	秋学期	保育士	〃
中川 香子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、幼稚園・保育所・認定子ども園における乳幼児に対して、豊かな造形表現の機会を提供できるように、専門的知識や技術、指導法を修得する。講義では、造形表現が自己認識を育くみ感性や創造性を培うこと、また、乳幼児が一人一人の表現を知り認め合うようになることがお互いを尊重する態度や精神を培う上で重要な意味を持つことを具体的な事例等を交えながら明らかにする。演習では、乳幼児の造形表現の技法や指導法を学び、さらにグループ研究発表において、乳幼児の発達をふまえながら保育実践の場面における造形表現の考え方や題材、環境構成、援助・指導等に関する力を保育者と子どもの両面から体験的に学習する。			①乳幼児期における「表現」の考え方について		
			②領域「表現」について		
			③演習(1) 感触遊び（乳児）		
			④演習(2) 感触遊び（幼児）		
			⑤造形活動の発達（描画）		
			⑥造形活動の発達（立体）		
			⑦演習(3) イメージ遊び		
			⑧表現における環境と援助		
到達目標					
1. 領域「表現」の考え方を理解した上で、保育者として必要な感性や創造性についてレポートを通して表すことができる。			⑨グループ研究(1)（題材研究）		
			⑩グループ研究(2)（教材研究）		
2. 造形的な表現活動の意味と重要性を理解し、乳幼児の描画や立体造形についての知識を他者に説明することができる			⑪グループ研究(3)（援助についての研究）		
			⑫グループ研究(4)（製作、準備）		
3. 演習や研究発表を通して造形的な表現における知識や技法・援助について学び、知識と実践力を示すことができる。			⑬グループ研究(5)（発表A）		
			⑭グループ研究(6)（発表B）		
			⑮研究発表の評価、まとめ		
成績評価基準					
研究発表（準備、発表、レポート）60％					
小テストとレポート20％					
授業に取り組む姿勢20％					
テキスト					
中川香子・清原知二編著「新時代の保育双書 保育内容表現」（みらい 2010年）					
準備学習の内容					
テキストによる予習					
研究発表における教材研究と事前の準備					

保 1	音楽教育法（１年生用）			卒 業	選択
				幼二種	選択必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	〃
高田 正久・持田 葉子・山内 信子・渡邊 康一郎				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育の中で子どもの音楽表現を豊かに展開するために必要な、音楽的知識とコード伴奏技術を習得することを目的とし、コードネームやコード進行の知識とそれらをピアノで弾く技術、また弾き歌いのためのピアノや歌唱の基礎的な技術を習得する。			①オリエンテーション（ML 機材の使い方）		
			②コードの基礎理論		
			③コードネームについて		
			④歌唱の基礎		
			⑤ベース音での弾き歌い		
			⑥コードネームによる弾き歌い実践 ハ長調		
			⑦コードネームによる弾き歌い実践 ヘ長調		
			⑧コードネームによる弾き歌い実践 ト長調		
到達目標			⑨コードネームによる弾き歌い実践 季節の歌（春・夏）		
1. 基本的なコード進行を理解し、自分で弾くことができる。 2. コードをもとに、子どもの歌に伴奏をつけることができる。 3. 伴奏をしながら歌うことができる。			⑩コードネームによる弾き歌い実践 ニ長調		
			⑪コードネームによる弾き歌い実践 変ロ長調		
			⑫コードネームによる弾き歌い実践 季節の歌（秋・冬）		
			⑬コードネームによる弾き歌い実践 季節の歌（園生活や行事の歌）		
			⑭コードネームによる伴奏のリズム変奏		
			⑮まとめ（実技試験に向けた試演と鑑賞）		
成績評価基準					
・小テスト（授業期間中に到達度を確認する実技テストを実施する）30％ ・定期試験（弾き歌いの実技試験を実施する）50％ ・平常点（進捗確認表の提出状況10％、授業への参加態度10％）20％					
テキスト					
・高田正久他「コード伴奏法の基礎」2017 ・小林美実編「音楽リズム―幼児のうた楽譜集」東京書籍 2014					
準備学習の内容					
毎回の授業で課された課題をよく練習すること。また子どもの歌のレパートリーを積極的に増やす努力をすること。					

保 1	子どもの保健 I - A			卒 業	選択
				幼二種	一
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
坂口 将太				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
一般的な子どもの発育発達とそれに関する評価方法、保育や養育環境との関係について講義し、保育に従事する者として必要な子どもの保健についての知識を学ぶことを目的とする。			①オリエンテーション		
			②子どもの健康とは		
			③子どもの健康と保育		
			④子どもの健康と養育環境		
			⑤子どもの身体発育		
			⑥子どもの身体発育に関わる評価方法		
			⑦子どもの身体発育と保育		
到達目標			⑧子どもの生理機能の発達①：体温・呼吸・循環		
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。 2. 子どもの発育発達と保健について理解し、子どもの状況に合わせた活動を選択できる。 3. 保健活動における安全管理と配慮するべき点について、事例を交えて指摘できる。			⑨子どもの生理機能の発達②：消化吸収・排泄		
			⑩子どもの運動機能の発達と評価		
			⑪子どもの精神機能の発達と保育		
			⑫子どもの栄養と食生活		
			⑬子どもの栄養と保育		
			⑭安全管理について		
			⑮子どもの健康増進		
成績評価基準					
授業態度15%					
課題提出物35%					
試験もしくはレポート50%（子どもの発育発達について）					
テキスト					
新 保育士養成講座編纂委員会編「新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健」全国社会福祉協議会					
準備学習の内容					
子どもの発育発達に関する基本的な情報や新聞記事などを調べておくこと。					

保 1	子どもの保健Ⅰ－B			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	講義	秋学期	保育士	必修
碓氷 ゆかり				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、集団保育に従事する者として必要な子どもの保健についての知識を深めることを目的とする。 ・子どもがかかりやすい疾病とその対策について説明する。 ・子どもに起こりやすい怪我や事故とその安全対策および適切な対応について説明する。 ・我が国の母子保健の現状を紹介する。			①子どもの健康増進と実践		
			②子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴		
			③子どもの疾病の予防と適切な対応		
			④子どもの生活環境と精神保健		
			⑤子どもの心の健康とその課題		
			⑥内分泌・代謝の疾病		
			⑦消化器・呼吸器の疾病		
			⑧循環器・血液の疾病		
到達目標			⑨免疫・アレルギーの疾病		
1. 子どもがかかりやすい疾病とその予防法および適切な対応について理解し、説明できるようになる。 2. 子どもの精神保健とその課題等について理解し、説明できるようになる。 3. 保育環境整備および衛生管理ならびに安全管理について理解し、主体的に考えることができるようになる。 4. 施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解し、説明できるようになる。			⑩泌尿器・運動系の疾病		
			⑪慢性疾患をもつ子どもの保育と支援体制		
			⑫保育環境整備および衛生管理		
			⑬保育現場における事故防止および安全対策、危機管理		
			⑭保育現場における災害対策		
			⑮母子保健対策および家庭・専門機関・地域との連携		
成績評価基準					
定期試験50％（授業で取り上げた内容についての筆記試験を定期試験中に実施する） レポート10％（保健だよりについてのレポートを作成し、提出する。必要事項の記入、見やすさ、読みやすさ、全体のバランス等について評価する） 平常点40％（毎回のレスポンスペーパー20％、授業への参加度20％）					
テキスト					
新 保育士養成講座編纂委員会編「新 保育士養成講座 第7巻 子ども保健」全国社会福祉協議会 2015					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。					

保 1	子どもの保健Ⅱ			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	春学期	保育士	必修
				認ベビ	〃
森 知子				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
保育実践における子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための保健活動の重要性について教授する。子どもの健康増進及び心身の発育・発達に必要な環境のあり方を学ぶとともに、乳幼児のモデル人形を用いて、子どもの健康観察や養護の実際について具体的、実践的に理解を深める。また、子どもの疾病と適切な対応、事故の特徴と事故防止について学び、応急手当、救命処置の技術を習得する。保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等についても理解できるようにする。				①子どもの保育と保健	
				②保健活動の計画と評価	
				③子どもの養護（抱き方、寝かせ方、おむつ交換等）	
				④子どもの養護（衣服の着脱、沐浴等）	
				⑤子どもの保健と生活習慣	
				⑥生理的機能の測定	
				⑦身体発育の評価	
				⑧子どもの疾病と対応（体調不良への対応）	
到達目標				⑨個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	
1. 乳幼児の養護（おむつ交換、衣服の着脱、沐浴等）、身体計測、生理機能の測定に関する知識と技術を習得し、モデル人形を使って実践する。 2. 子どもの疾病や事故の特徴とその予防について理解し、応急手当、心肺蘇生法の知識と技術を習得し、モデル人形を使って実践できる。 3. 習得した知識を保健活動の計画及び評価のあり方に活用できる。				⑩事故と応急手当	
				⑪救急蘇生法	
				⑫感染症の予防と対策	
				⑬事故防止と健康安全管理	
				⑭子どもの心とからだの健康問題	
				⑮健康教育、家庭・地域との連携	
成績評価基準					
授業に取り組む姿勢30%（参加態度10%、授業内課題20%）、レポート10%、定期試験60%の総合点で評価する。					
テキスト					
高内正子編著 改訂「子どもの保健演習ガイド」建帛社 2015					
準備学習の内容					
指定されたテキストを読んでおく。提示された課題を期日までに提出できるよう取り組む。演習時は、乳幼児と関わる姿勢をもち、服装・髪・爪などの身だしなみを整えておく。毎回エプロンを着用すること。					

保 1	子どもの保健Ⅱ			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	春学期	保育士	必修
河本 久美子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育実践における子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための保健活動の重要性について教授する。子どもの健康増進及び心身の発育・発達に必要な環境のあり方を学ぶとともに、乳幼児のモデル人形を用いて、子どもの健康観察や養護の実践について具体的、実践的に理解を深める。また、子どもの疾病と適切な対応、事故の特徴と事故防止について学び、応急手当、救命処置の技術を習得する。保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等についても理解できるようにする。			①子どもの保育と保健		
			②保健活動の計画と評価		
			③子どもの養護（抱き方、寝かせ方、おむつ交換等）		
			④子どもの養護（衣服の着脱、沐浴等）		
			⑤子どもの保健と生活習慣		
			⑥生理的機能の測定		
			⑦身体発育の評価		
			⑧子どもの疾病と対応（体調不良への対応）		
到達目標			⑨個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
1. 乳幼児の養護（おむつ交換、衣服の着脱、沐浴等）、身体計測、生理機能の測定に関する知識と技術を習得し、モデル人形を使って実践する。 2. 子どもの疾病や事故の特徴とその予防について理解し、応急手当、心肺蘇生法の知識と技術を習得し、モデル人形を使って実践できる。 3. 習得した知識を保健活動の計画及び評価のあり方に活用できる。			⑩事故と応急手当		
			⑪救急蘇生法		
			⑫感染症の予防と対策		
			⑬事故防止と健康安全管理		
			⑭子どもの心とからだの健康問題		
			⑮健康教育、家庭・地域との連携		
成績評価基準					
授業に取り組む姿勢30％（参加態度10％、授業内課題20％）、レポート10％、定期試験60％の総合点で評価する。					
テキスト					
高内正子編著 改訂「子どもの保健演習ガイド」建帛社 2015					
準備学習の内容					
指定されたテキストを読んでおく。提示された課題を期日までに提出できるよう取り組む。演習時は、乳幼児と関わる姿勢をもち、服装・髪・爪などの身だしなみを整えておく。毎回エプロンを着用すること。					

保 1	社会福祉学			卒 業	選択
				幼二種	一
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
波田 塾 英治				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
現代社会における社会福祉の意義や歴史の変遷について解説し、社会福祉の制度や実施体制が理解できるように講義する。そして、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について説明する。また、社会福祉の現状と課題について整理し、動向と展望を講義する。			①保育と社会福祉		
			②戦前、戦後の社会福祉		
			③社会福祉の改革		
			④社会福祉の理念と概念		
			⑤社会福祉の法体系		
到達目標			⑥社会福祉の実践体制と財源		
			⑦社会保障制度		
			⑧生活保護制度		
			⑨子どもと家庭の福祉		
			⑩障害を持つ人の福祉		
1. 現代社会における社会福祉の意義や歴史の変遷について理解し、社会福祉の制度や実施体制を習得する。			⑪高齢者福祉		
			⑫地域福祉		
			⑬社会福祉の専門職と倫理		
			⑭社会福祉の専門援助技術		
			⑮社会福祉の動向と展望		
2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について習得する。					
3. 社会福祉の現状と課題について理解し、動向と展望を考察できる。					
成績評価基準					
定期テスト50%、受講態度、提出物、出席等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
相澤譲治編集「保育士をめざす人の社会福祉」(株)みらい 2017年 保育福祉小六法編集委員会編「保育福祉小六法 2017年度版」(株)みらい 2017年					
準備学習の内容					
①指定した教科書のキーポイントを事前に読んでおくこと。					
②次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。					

保 1	相 談 援 助			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	春学期	保育士	必修
小山 顕				認ベビ	々
				児二級	々
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育の領域における相談援助の概要を理解し、保育におけるソーシャルワークの応用と、事例分析を通して援助の対象への理解を深め、基本となる援助の方法・技術、具体的な展開の仕方を習得することをねらいとし授業を行う。			①オリエンテーション（シラバス説明）／相談援助とは何か		
			②ソーシャルワークの基本要素		
			③ソーシャルワークの体系		
			④ソーシャルワークのプロセス（援助の過程）と記録		
			⑤ケースワーク（個別援助技術）とは何か		
			⑥ケースワークの原理・原則		
			⑦保育場面におけるケースワーク		
			⑧グループワーク（集団援助技術）とは何か		
到達目標			⑨グループワークの原則と展開過程		
授業を通して修得した知識や実践力を活用し、他者一特に幼い者やその保護者、また社会的に弱くされた者たち一、社会、世界において奉仕するための力を自らの内に育てることができるようになる。そのために、 1. 保育の現場において必要とされる基礎的な相談援助に関する技術を演習の場で活用することができる。 2. 相談援助を適切に行うために役立つ地域社会の資源（リソース）を理解し、演習を通して模擬的にその利用・活用方法を提示することができる。			⑩コミュニティワーク（地域援助技術）とは何か		
			⑪コミュニティワークの原則と展開過程		
			⑫保育士の専門性とソーシャルワーク		
			⑬保育の場で用いる援助技術		
			⑭保育士が行う相談援助		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
レスポンスペーパー（35％） 期末試験（50％） 受講態度・授業への参与度（15％）					
テキスト					
伊藤嘉余子著「子どもと社会の未来を拓く 相談援助」青踏社 2013					
準備学習の内容					
受講前にテキストの次回授業範囲を熟読しておくこと。また受講後にレジュメを復習し、主体的に準備学習に取り組むこと。					

保 1	児童家庭福祉			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	秋学期	保育士	必修
波田埜 英治				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
児童家庭福祉と保育の関連性を明らかにし、児童の人権について講義をする。そして、現代社会における児童家庭福祉の意義や歴史の変遷について解説し、児童家庭福祉の制度や実施体制が理解できるように説明する。また、児童家庭福祉の現状と課題について整理し、動向と展望を講義する。			①児童家庭福祉とは何か		
			②児童家庭福祉の歴史の変遷		
			③児童の権利擁護		
			④児童家庭福祉の制度と法体系		
			⑤児童家庭福祉行財政と実施機関		
			⑥児童福祉施設と専門性		
			⑦保育・教育施設と幼保一体化		
			⑧子育て支援サービス		
到達目標			⑨母子保健と児童の健全育成		
1. 児童家庭福祉と保育の関連性を知り児童の人権の概念や知識を習得する。 2. 現代社会における児童家庭福祉の意義や歴史の変遷について理解し、児童家庭福祉の制度や実施体制の知識を習得する。 3. 児童家庭福祉の現状と課題を整理し、動向と展望を理解する。			⑩ひとり親家庭の増加と支援		
			⑪社会的養護		
			⑫児童虐待・ドメスティックバイオレンス防止への支援		
			⑬障がいのある子どもへの支援		
			⑭非行少年等への支援		
			⑮これからの児童家庭福祉		
成績評価基準					
定期テスト50%、受講態度、提出物、出席等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
杉本敏夫監修 立花直樹・波田埜英治編著「新はじめて学ぶ社会福祉①児童家庭福祉論」ミネルヴァ書房 2017年					
準備学習の内容					
①社会福祉学や社会的養護の授業内容を復習しておくこと。					
②子育て支援や児童虐待についての基礎知識を予習しておくこと。					

保 1	児童館・放課後児童クラブの機能と運営			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	秋学期	保育士	—
森 知子・小山 顕・中川 一良				認ベビ	—
				児二級	必修
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
子どもを取り巻く環境の現状を踏まえ、児童福祉の基本概念である「健全育成」の考え方を理解するとともに、その理念を具現化する児童館・放課後児童クラブの機能について学ぶ。現代の子どもの健全育成上の課題や、地域における児童館・放課後児童クラブの役割、活動内容等について講義する。			①オリエンテーション		
			②児童の健全育成について		
			③健全育成の具体的内容と遊びの意義		
			④児童館・放課後児童クラブの歴史的変遷		
			⑤児童館・放課後児童クラブの概要		
			⑥児童館ガイドラインの内容		
			⑦児童館の役割		
			⑧放課後児童クラブガイドラインの内容		
到達目標			⑨放課後児童クラブの役割		
1. 健全育成の考え方、児童館・放課後児童クラブの概要と具体的な活動内容を理解し説明できる。 2. 地域における児童館・放課後児童クラブの機能と役割について説明できる。			⑩児童館・放課後児童クラブの運営管理		
			⑪児童館・放課後児童クラブの安全対策		
			⑫児童館・放課後児童クラブの環境構成		
			⑬児童厚生員・放課後児童指導員の職務と倫理		
			⑭児童館・放課後児童クラブの課題と展望		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
授業への参加態度30％、定期試験70％の総合点で評価する。					
テキスト					
後日、提示する。					
準備学習の内容					
指定されたテキストを事前に読んでおく。					

保 1	社会的養護			卒 業	選 択
				幼二種	一
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
立花 直樹				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
社会的養護を必要とする児童やその背景について学び、社会的養護の歴史の変遷と現代社会における意義について理解し、児童家庭福祉との関連性及び児童の権利擁護について学ぶことを目的とする。			①イントロダクション 社会福祉の中の児童家庭福祉		
			②社会的養護の理念と概念		
			③社会的養護の歴史の変遷		
			④児童家庭福祉の一分野としての社会的養護		
			⑤児童の権利擁護		
			⑥社会的養護の制度と法体系		
			⑦社会的養護の仕組みと実施体系		
			⑧家庭養護と施設養護		
到達目標			⑨社会的養護の専門職と実施者		
児童福祉施設の社会的役割を知り、特に社会的養護の現状と課題を学ぶことにより、保育士に求められる豊かな人間性と多様な専門性を理解できるようになる。			⑩施設養護の基本原則		
			⑪施設養護の実践（日常生活支援・心理的支援）		
			⑫施設養護とソーシャルワーク		
			⑬施設の運営管理		
			⑭被虐待児等の虐待防止		
			⑮社会的養護と地域福祉		
成績評価基準					
小テスト（授業期間中に 3 回実施する）40%、授業への積極的参加度30%、提出物30%で評価する。					
テキスト					
伊達悦子・辰己隆編著「保育士をめざす人の社会的養護」(株)みらい 2012					
準備学習の内容					
毎回の授業を復習し、次回の授業範囲をテキストにて予習しておくこと。新聞やニュースで社会的養護についてのキーワードを意識する。					

保 1	子どもの食と栄養			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	春学期	保育士	必修
小島 ゆかり				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、①健康な生活の基本として食生活の重要性を理解し、栄養の基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、特別な配慮を要する子どもの栄養について理解する。③家庭や児童福祉施設での食生活の現状と課題、地域社会での食育の基本と食育環境を理解し食育推進の意識を育てることを目的とする。			①子どもの健康と食生活の意義(1)		
			②子どもの健康と食生活の意義(2)		
			③栄養に関する基本的知識(1)		
			④栄養に関する基本的知識(2)		
到達目標			⑤子どもの発育・発達と食生活(1)		
			⑥子どもの発育・発達と食生活(2)		
			⑦子どもの発育・発達と食生活(3)		
			⑧子どもの発育・発達と食生活(4)		
食生活の大切さや、栄養についての基本的な知識を学び、また、子どもの発育・発達と食生活の関連、現状、課題などについて理解を深めることで、食育を意識した保育ができることを目標とする。			⑨子どもの発育・発達と食生活(5)		
			⑩子どもの発育・発達と食生活(6)		
			⑪家庭や児童福祉施設における食事と栄養		
			⑫特別な配慮を要する子どもの食と栄養		
			⑬食育の基本と内容(1)		
			⑭食育の基本と内容(2)		
			⑮食育の基本と内容(3)		
成績評価基準					
授業中試験35%、平常レポート45%、フロチャート20%					
テキスト					
高内正子監修、今津屋直子編著「子どもの食と栄養」保育出版社					
準備学習の内容					
実習内容はフロチャートを事前に作成し、期限までに提出すること。また、教科書にもあらかじめ目を通しておくこと。					

保 1	子どもの食と栄養			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	春学期	保育士	必修
宮川 尚子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、①健康な生活の基本として食生活の重要性を理解し、栄養の基本的知識を学ぶ、②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、特別な配慮を要する子どもの栄養について理解する、③家庭や児童福祉施設での食生活の現状と課題、地域社会での食育の基本と食育環境を理解し食育推進の意識を育てることを目的とする。			①子どもの健康と食生活の意義(1)		
			②子どもの健康と食生活の意義(2)		
			③栄養に関する基本的知識(1)		
			④栄養に関する基本的知識(2)		
			⑤子どもの発育・発達と食生活(1)		
			⑥子どもの発育・発達と食生活(2)		
			⑦子どもの発育・発達と食生活(3)		
			⑧子どもの発育・発達と食生活(4)		
到達目標			⑨子どもの発育・発達と食生活(5)		
食生活の大切さや、栄養についての基本的な知識を学び、また、子どもの発育・発達と食生活の関連、現状、課題などについて理解を深めることで、食育を意識した保育ができることを目標とする。			⑩子どもの発育・発達と食生活(6)		
			⑪家庭や児童福祉施設における食事と栄養		
			⑫特別な配慮を要する子どもの食と栄養		
			⑬食育の基本と内容(1)		
			⑭食育の基本と内容(2)		
			⑮食育の基本と内容(3)		
成績評価基準					
授業中試験35%、平常リポート45%、フローチャート20%					
テキスト					
高内正子監修、今津屋直子編著「子どもの食と栄養（第2版）」保育出版社 2016					
準備学習の内容					
実習内容はフローチャートを事前に作成し、期限までに提出すること また、教科書にもあらかじめ目を通しておくこと					

保 1	乳児保育Ⅰ－A			卒 業	選択
				幼二種	—
1 単位				演習	秋学期
				保育士	必修
千葉 武夫				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境（家庭での保育・保育所など）の現状を配慮し、乳児の個人差にあわせて適当な保育することは、保育者にとって基本である。そのために、低年齢児の保育の概念と意義を学び、発育・発達の特徴を理解する。また、乳児保育に必要な原理や知識、技能を習得することを目指す。実際に保育士や保育教諭として乳児保育を展開できるように、具体的な事例や演習を通して実践的に学ぶ。				①乳児、乳児保育について	
				②乳児の数（出生数・合計特殊出生率）、1 歳以上 3 歳未満児の数	
				③保育所・幼保連携型認定子ども園の現状及び在籍数	
				④乳児保育の原理と基本（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）	
				⑤保育の内容の構成とねらい	
				⑥ 0 歳児の発育・発達	
				⑦ 0 歳児の保育の内容	
				⑧ 1 歳児の発育・発達	
				⑨ 1 歳児の保育の内容	
				⑩ 2 歳児の発育・発達	
				⑪ 2 歳児の保育の内容	
				⑫全体的な計画・指導計画及び記録について	
				⑬食物アレルギーについて	
				⑭保育所保育を取り巻く課題	
				⑮まとめ	
到達目標					
1. 子どもの発育・発達を理解し、乳児を保育するにあたって必要な知識を理解し、説明できるようになる。					
2. 乳児を保育するにあたり、保育士として必要な技術などについて、学び、実践できるようになる。					
成績評価基準					
平常点50点、試験50点とする。平常点については、各授業で実施するその日の学びの振り返りペーパーと授業への参加態度などを評価する。試験については、学習到達度を確認するテストを行う。					
テキスト					
CHS 子育て文化研究所編「乳児保育」萌文書林、民秋 言編「幼稚園教育要領保育所保育指針の成立と変遷」萌文書林、参考文献：「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
準備学習の内容					
乳児の発育・発達の特徴を理解するために、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」や乳児保育のテキストをよく読んでおくこと。					

保 1	基 礎 演 習			卒 業	必修
				幼二種	—
	2 単位	演 習	春学期	保育士	必修
碓氷ゆかり・小山 顕・坂口 将太・橘 実千代・馬場耕一郎・森 知子・ 山内 信子・鑄物 太朗・天白 和子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
教育・保育の質は、単なる指導技術の習熟ではなく、保育者の人格こそが子どもの育ちに大きな影響を与える。本科目では、保育者の仕事・役割等、保育に関する学びを通して、自らの資質を向上させることを目的とする。			①保育者になるための学習課程		
			②自らの幼児期について（発表）		
			③自らの幼児期について（ディスカッション）		
			④保育者のイメージ		
			⑤保育者のマナー		
			⑥幼稚園園舎・保育室の見学		
			⑦保育とは、教育とは		
			⑧演習（保育行事について）		
到達目標			⑨保育者の仕事・役割		
1. 保育者としての資質・能力について知り、自らの保育者像について主体的に考えることができるようになる。 2. 保育者として必要な知識・技能を体験的に学び、保育者の仕事・役割について理解する。			⑩保育の一日の流れ		
			⑪保育者の仕事・役割		
			⑫保育体験		
			⑬保育者の資質		
			⑭演習（保育行事に参加して）		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
レポート55%（授業期間中にレポート 3 回提出、試験期間中に最終レポート提出） 平常点45%（授業での発表、授業への参加度等）					
テキスト					
適宜資料を配付する。					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。					

保 1	関西学院・聖和学			卒 業	必修
				幼二種	—
	1 単位	講義	春学期	保育士	—
小見 のぞみ				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
自らが入学し、一員となった「学校法人関西学院 聖和短期大学」とは、どのような学校なのかを知るための授業である。キリスト教主義に基づき“Mastery for Service”をスクールモットーとする関西学院の聖和短期大学で保育を学ぶ意義を、それぞれが自覚することを目指して、学校の歴史と建学の精神について講義する。			①関西学院について		
			②スクールモットー “Mastery for Service”		
			③建学の精神と創立者 W・R・ランバス		
			④校歌「空の翼」		
			⑤校章・エンブレム		
			⑥キリスト教主義教育について		
			⑦キリスト教の行事理解		
			⑧「垣根なき学びの共同体」で「学ぶ」		
到達目標			⑨関西学院インクルーシブ・コミュニティの構築		
1. 関西学院と聖和短期大学の「建学の精神」、創立者ならびに歴史の概要を他者に話すことができるようになり、校歌、学歌を歌えるようになる。 2. 関西学院の聖和短期大学で保育を学ぶことの意義を考えるようになる。			⑩聖和の源流 1 神戸女子神学校		
			⑪聖和の源流 2 ランバス記念伝道女学校		
			⑫「聖和の保育」 1 広島女学校保姆師範科と附属幼稚園		
			⑬「聖和の保育」 2 ランバス女学院～聖和女子学院		
			⑭「聖和の保育」 3 聖和女子短期大学以降		
			⑮学歌「新しき歌」		
成績評価基準					
小テスト（授業期間中に学習到達度を確認する小テストと校歌、学歌チェックテストを実施する）80％、礼拝コメントシート20％、で評価する。					
テキスト					
「輝く自由」、2017年度聖和短期大学要覧					
準備学習の内容					
予備学習として、指定する学期中の学校礼拝に出席し、キリスト教主義教育について理解を深める。					

保 1	教育保育参観実習			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	実習	秋学期	保育士	—
森 知子・小山 顕・橘 実千代・上原 道子・讃岐 京子・高田 敦子・辰野 蘭子・福井 満子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、教育実習・保育実習の最初の段階として位置づけられる。幼稚園・保育所において、保育の実際を参観することによって、保育環境、子ども理解、保育者の援助のあり方などについての基礎を体験的に学ぶことを目的とする。また保育者となるための自覚や基本的態度を身につけることができるようにする。 実習場所は、関西学院幼稚園および聖和乳幼児保育センターである。毎回設定されたテーマを中心に参観実習（観察および一部参加型実習）を行い、実習後は保育者との協議の時間をとおして、保育についての指導・助言を受ける。			①オリエンテーション（概要） ②オリエンテーション（心得） ③子どもと保育環境（人的環境） ④子どもと保育環境（物的環境） ⑤子どもと保育環境（自然環境他） ⑥子どもと保育環境（保健および安全） ⑦子どもの活動と保育者の援助—子どもの活動を中心に ⑧子どもの活動と保育者の援助（保育室の活動） ⑨子どもの活動と保育者の援助（戸外の活動） ⑩子どもの活動と保育者の援助（自由活動） ⑪子どもの活動と保育者の援助（クラス全体の活動） ⑫子どもの活動と保育者の援助（個々の活動） ⑬子どもの理解（幼児—子どもの内面） ⑭子どもの理解（幼児—子どもの遊び） ⑮子どもの理解（幼児—仲間関係） ⑯子どもの理解（幼児—保育者の援助） ⑰子どもの理解（乳児—子どもの内面） ⑱子どもの理解（乳児—子どもの遊び） ⑲子どもの理解（乳児—基本的生活習慣） ⑳子どもの理解（乳児—保育者の援助） ㉑子どもの活動と保育者の援助—保護者の援助を中心に ㉒子どもの活動と保育者の援助（援助の意図） ㉓子どもの活動と保育者の援助（直接的援助） ㉔子どもの活動と保育者の援助（間接的援助） ㉕保育とねらい（心情） ㉖保育とねらい（意欲） ㉗保育とねらい（態度） ㉘保育とねらい（子どもの育ちへの願い） ㉙まとめ（保育者との協議） ㉚まとめ（保育者からの指導・助言）		
1. 指定した全ての実習に取り組むことができる。					
2. 参観実習（観察および一部参加型実習）をとおして、保育環境、子どもの活動、保育者の援助のあり方などを理解し、保育実践の基礎となる知識を身につけることができる。					
3. 実習の意味や目的を理解し、保育者となるための自覚と責任を持って、主体的な態度で実習に取り組むことができる。					
成績評価基準					
「実習日数」「実習記録およびレポートなどの提出状況・内容」「実習生として実習を受ける態度」を評価の基準とし、合否を判定する。本科目の評価は、教育保育参観実習事前事後指導の評価と連動する。					
テキスト					
教育保育参観実習事前事後指導に準ずる。					
準備学習の内容					
健康管理に十分に留意し、保育の場で実習することを踏まえて、身だしなみを整える。「実習の手引」や「教育保育参観実習事前事後指導要項」を熟読し、内容を理解しておく。					

保 1	教育保育参観実習事前事後指導			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	秋学期	保育士	—
森 知子・小山 顕・橘 実千代・上原 道子・讃岐 京子・高田 敦子・辰野 蘭子・福井 満子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
「教育保育参観実習」のための事前事後指導である。実習に効果的に取り組むことができるよう、少人数制のクラスで授業を行う。事前指導では、教育保育参観実習の意義や目的、内容、心得等を説明し、実習に向けて準備を行う。事後指導では、教育保育参観実習の経験を振り返り、小グループによる話し合いや発表をとおして、実習における学びを共有できるようにする。 授業は、教育保育参観実習のテーマに基づいて行い、保育についての理解を深められるように助言する。また実習記録の意味や基本的な書き方を教授する。			①幼稚園および保育所についての基本的理解		
			②参観実習の目的、内容、方法の理解		
			③実習記録について（記録の意味）		
			④実習記録について（基本的な書き方）		
			⑤参観実習の経験について（発表）		
			⑥テーマに基づいた話し合い（保育環境）		
			⑦テーマに基づいた話し合い（子どもの活動）		
			⑧テーマに基づいた話し合い（保育者の援助）		
到達目標			⑨テーマに基づいた話し合い（保育とねらい）		
1. 教育保育参観実習の経験を振り返り、小グループでの話し合いに主体的に参加できる。			⑩子どもの理解（幼児）		
			⑪子どもの理解（乳児）		
2. 実習をとおして学んだこと、考えたことを自分の言葉で表現できる。			⑫参観実習の経験について（学びの共有）		
			⑬実習記録の書き方についての事後指導		
3. 実習記録の書き方を学び、基本的な実習記録を書く力を身につけることができる。			⑭実習の反省と自己課題の発見、今後の取り組み		
			⑮まとめ		
4. 次段階の実習に向けて自己課題を発見し、保育者になるための学習意欲を持つことができる。					
成績評価基準					
「授業への出席状況および参加態度」「レポートおよび書類などの提出状況・内容」を評価の基準とし、可否を判定する。本科目の評価は、教育保育参観実習の評価と連動する。					
テキスト					
2017年度入学生用「実習の手引き」「教育保育参観実習事前事後指導要項」（後日配付）					
準備学習の内容					
教育保育参観実習の目的や内容、心得等を理解しておく。実習を通して学んだことや自己課題を整理して、実習記録作成を行うこと。					

保 1	保育実習Ⅰ－B			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	実 習	秋学期	保育士	必修
波田 埜英治・坂口 将太・高田 正久・橘 実千代・森 知子・兼安 満 宮脇 弘次・横山 泰直				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深め、児童家庭福祉や社会的養護の役割を理解して、子どもへの援助や保護者支援、家庭調整のための知識、技術等を養う。保育士の業務内容や職業倫理を学び、保育士としての自己課題を明確にすることを目的とする。			①実習施設について理解する。		
			②施設での一日の流れを理解し、参加する。		
			③子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解する。		
			④自立支援計画を理解する。		
			⑤子どもへの援助や支援を担当し、援助技術を習得する。		
			⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解する。		
			⑦子どもの最善の利益への配慮について学ぶ。		
			⑧保育士の職業倫理を理解する。		
			⑨保育士としての自己課題を整理する。		
到達目標					
1. 保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解する。					
2. 児童家庭福祉や社会的養護の役割を理解して、子どもへの援助や保護者支援、家庭調整のための知識、技術等を習得する。					
3. 保育士の業務内容や職業倫理を学び、保育士としての自己課題が整理できる。					
成績評価基準					
実習中の記録、提出物、実習報告書などで総合的に評価する。					
テキスト					
編集 岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎「施設実習ハンドブック」(株)みらい 2016年					
準備学習の内容					
実習をする前に事前指導の教科内容を復習しておくこと。					

保 1	保育実習 I 事前事後指導			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	演習	秋学期	保育士	必修
波田 莚英治・坂口 将太・高田 正久・橘 実千代・森 知子・兼安 満 宮脇 弘次・横山 泰直				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育実習の意義・目的を解説し、実習の内容を理解して自らの課題を明確にできるように指導する。また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明する。そして、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標が明確になるように指導する。			①オリエンテーション		
			②課題試験、児童福祉施設で働く保育士の役割		
			③保育実習の意義		
			④保育実習で学ぶべき事		
			⑤保育実習について		
			⑥各施設種別の機能、社会的役割、実態等について		
			⑦実習期間中の流れ、実習内容		
			⑧記録の意味、実習日誌の書き方		
			⑨オリエンテーションについて		
			⑩個人票の書き方		
			⑪実習のテーマ		
			⑫指導案の書き方		
⑬保育実習に向けて					
⑭最終確認、諸注意					
⑮事後指導					
成績評価基準					
実習中の記録、提出物、実習報告書などで総合的に評価する。					
テキスト					
岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎編集「社施設実習ハンドブック」(株)みらい 2016年					
準備学習の内容					
児童福祉施設全般の理解を深めておくこと。					

保 1	保育と研修			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	通年集中	保育士	—
碓氷ゆかり・齊木 久代・坂口 将太・高田 正久・橘 実千代・千葉 武夫 中川 香子・波田埜英治・馬場耕一郎・持田 葉子・森 知子・山内 信子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
女性の社会進出や急速な少子化が進む中、近年、子ども・子育てを取り巻く環境が大きく変化している。このため、保育に携わる者は従来の知識・技能とともに、近代特有の専門知識や能力の習得が求められている。本科目は、現在の保育実践の場で必要とされる知識や能力を身につけることを目的とする。				①新保育制度について（担当：馬場）	
				②視聴覚教材、絵本の効果的な使い方（担当：橘）	
				③保育技術演習（わらべうたあそび等）（担当：持田）	
				④子どもの発達（担当：齊木）	
				⑤子どもの保健（担当：森）	
				⑥食と栄養、アレルギー（担当：馬場）	
				⑦造形あそび（担当：中川）	
				⑧社会的養護内容（担当：波田埜）	
到達目標					
1. 保育実践の場で求められる幼稚園教諭・保育士の職務を確認し、主体的に考えることができるようになる。 2. 多様な保育ニーズに対応できる知識や能力を身につける。				⑨現代社会における家庭支援のあり方（担当：波田埜）	
				⑩保育指導計画（担当：碓氷）	
				⑪うたと音楽あそび（担当：高田）	
				⑫乳児保育の果たす役割（担当：千葉）	
				⑬障害児保育の現状と課題（担当：橘）	
				⑭保育技術演習（うたあそび等）（担当：山内）	
				⑮体育あそび（担当：坂口）	
成績評価基準					
レポート50%（各学期において、各授業で提示された課題の中から1つ選んで、レポートを作成し、提出する。課題の内容についての学修到達度について評価する） 平常点50%（授業への参加度等）					
テキスト					
適宜資料を配付する。					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。					

保 2	日本国憲法			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	—
小山 顕				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
日本国憲法は施行から70年が過ぎ、日本の社会に着実に根付いてきた。しかしその一方で、その間の国内、国外情勢の変化により、多くの課題にも直面している。これらの状況を視野に入れながら、日本国憲法の理念・体系・存在意義・役割などについて理解するために、受講者一人ひとりが考え学ぶことをねらいとする。				①オリエンテーション	
				②日本国憲法の成立の歴史	
				③日本国憲法の基本原理	
				④国民主権と象徴天皇制	
				⑤日本国憲法の平和主義	
				⑥基本的人権について	
				⑦法の下での平等	
				⑧表現の自由と報道	
到達目標				⑨子どもの人権・子どもと法	
授業を通して修得した知識を活用し、他者一特に幼い者や社会的に弱くされた者たち一、社会、世界に奉仕するための力を自らの内に養い育てることができるようになる。そのために、 1. 日本国憲法の全体像を把握し、述べることができる。 2. 現代社会における諸問題を日本国憲法との結びつきの中で捉え、考察し、説明することができる。				⑩社会権	
				⑪三権分立	
				⑫参政権・選挙制度	
				⑬日本の裁判制度	
				⑭憲法の改正について	
				⑮まとめ	
成績評価基準					
レスポンスペーパー（50％） 期末試験（35％） 受講態度・授業への参与度（15％）					
テキスト					
特になし。必要に応じてその都度、レジュメ、参考資料を配布する。					
準備学習の内容					
受講前に配布資料を一読するなどの予習、受講後にレジュメ、配布資料などを復習するなどし、主体的に準備学習に取り組むこと。					

保 2	子どもと人権			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	〃
小見 のぞみ				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
世界には、年齢、性別、国籍、学歴、職業、家柄、出身地、地位、身体的特徴などから人間を捉える、偏った人間観や差別意識による人権侵害が存在する。この授業では、これらの人権問題を、特に「子ども」という社会的弱者の視点から解説し、あらゆる差別と暴力を許さない人権感覚を育み、子どもの権利を擁護できる保育者を目指すようになることを目的とする。			①コースオリエンテーション 人間とは何か		
			②人権を見る視点 VTR「バランス」を見て		
			③社会的弱者への偏見と差別 1.		
			④社会的弱者への偏見と差別 2.		
			⑤子どもの権利と家族 1. 誕生と母子関係		
			⑥子どもの権利と家族 2. 食卓から考える家庭		
			⑦子どもの権利と家族 3. 家族の形の多様化と課題		
			⑧子どもの権利と学校		
到達目標			⑨「子どもの権利」思想の歴史		
1. 社会にある様々な差別や人権侵害の状況のいくつかについて、ならびに「子どもの権利条約」の内容について説明できるようになる。 2. 子どもの権利擁護に関して、自分の意見を述べられるようになる。			⑩「子どもの権利条約」		
			⑪部落差別の歴史と人権教育 1		
			⑫部落差別の歴史と人権教育 2		
			⑬部落差別の歴史と現代的課題		
			⑭ジェンダーと性差別		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
期末試験（授業内容の習熟度と子どもの人権擁護に対する考えを確認する）によって評価する。					
テキスト					
特に定めないが、「子どもによる子どものための『子どもの権利条約』」小学館、1995年 他 授業時に資料を提示する。					
準備学習の内容					
日常生活において、社会にある人権問題、時事問題に関心を向けて情報を収集する。授業で扱った人権に関わる課題について、理解を深める学習、読書に取り組む。					

保 2	芸 術			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	講義	春学期	保育士	—
高田 正久				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、一年次の「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の内容をさらに深め、保育者として求められるピアノ演奏と弾き歌いの技術を高め、幼児への表現の指導や援助を適切に行う力を身につけることを目的とする。また、実習や就職試験に向けた対策として、歌唱指導や弾き歌いの初見演奏なども行う。			①オリエンテーション（ピアノ演奏や発声法の基本）		
			②実技演習の指導 リズム活動曲		
			③実技演習の指導 ソルフェージュの基礎		
			④実技演習の指導 伴奏法		
			⑤実技演習の指導 初見のポイント		
			⑥実技演習の指導 ピアノ演奏法に必要な技能		
			⑦実技演習の指導 歌唱指導法		
			⑧発表と鑑賞		
到達目標					
1. リズム活動曲の弾き歌いの曲を人前でスムーズに演奏することができる。 2. 簡単な弾き歌いの初見ができる。 3. 模擬保育等で歌唱指導ができる。					
成績評価基準					
・授業内発表（弾き歌いとピアノ曲の授業内実技試験）50% ・平常点（課題の提出状況40%、授業への参加態度10%）50%					
テキスト					
関西学院、聖和短期大学編「保育者のためのピアノ曲集」河合楽器製作所・出版部 2014 小林美実編「音楽リズムー幼児のうた楽譜集」東京書籍 2014 等					
準備学習の内容					
日頃から、授業で演奏する課題をよく練習しておくこと。また、保育実践の場でよく用いられる音楽についての情報を、楽譜や文献、WEB等で調べておくこと。					

保 2	芸 術			卒 業	選 択
	1 単位	講義	春学期	幼二種	—
山内 信子				保育士	—
				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
本科目は、一年次の「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の内容をさらに深め、保育者として求められるピアノ演奏と弾き歌いの技術を高め、幼児への表現の指導や援助を適切に行う力を身につけることを目的とする。また、実習や就職試験に向けた対策として、歌唱指導や弾き歌いの初見演奏などを行う。				①オリエンテーション（ピアノ演奏や発声法の基本）	
				②実技演習の指導 リズム活動曲	
				③実技演習の指導 ソルフエージュの基礎	
				④実技演習の指導 伴奏法	
				⑤実技演習の指導 初見のポイント	
				⑥実技演習の指導 歌唱	
				⑦実技演習の指導 歌唱指導法	
				⑧発表と鑑賞	
到達目標					
1. リズム活動曲や弾き歌いの曲を人前でスムーズに演奏することができる。					
2. 簡単な弾き歌いの初見ができる。					
3. 模擬保育等で歌唱指導ができる。					
成績評価基準					
・授業内発表（弾き歌いとピアノ曲の授業内実技試験）50%					
・平常点（課題の提出状況40%、進度確認表の提出状況10%）50%					
テキスト					
関西学院、聖和短期大学編「保育者のためのピアノ曲集」河合楽器製作所・出版部 2014					
小林美実編「音楽リズムー幼児のうた楽譜集」東京書籍 2014 等					
準備学習の内容					
日頃から、授業で演奏する課題をよく練習しておくこと。また、保育実践の場でよく用いられる音楽についての情報を、楽譜や文献、WEB等で調べておくこと。					

保 2	英 語 Ⅲ			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	—
神野 尚				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
英語の基礎をしっかりと固め、総合的な英語力を強化することを目的とする。イギリス文化理解を日本との比較の視点から捉えたエッセイをコアにして、社会と娯楽、文化と環境、ビジネスと生活、教育と技術の4つのジャンルから選んだトピックと取り組む。			① Our Aging Society		
			② Holiday Memories		
			③ Sport		
			④ Foreign Workers		
			⑤ Lifestyles		
			⑥ Sizes		
			⑦ Bathrooms		
到達目標			⑧ Weather and Global Warming		
1. 編入試験に役立つ基礎的な文法知識・読解力が身につくようになる。 2. ネイティブ・スピーカーとの基本的なコミュニケーションがスムーズに行えるようになる。			⑨ Recycling		
			⑩ Commuting		
			⑪ Crumbling Britain		
			⑫ Advertising		
			⑬ Technology and Us		
			⑭ Cars : Transport or Status		
			⑮ Our Education		
成績評価基準					
試験70%、出席・授業への参加態度30%の総合点で評価する。 試験はユニットごとに実施する（合計15回）。					
テキスト					
Terry O'Brien 他「English Indicator 2（英語総合インディケーター）」南雲堂 2016					
準備学習の内容					
指定したテキストの内容を全て事前に読み、単語の意味をきちんと調べておくこと。各回の授業範囲を予習・復習し、毎回実施するテストに備えておくこと。					

保 2	英 語 IV			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	講 義	秋学期	保育士	—
神野 尚				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
コミュニケーションの手段としての英語を楽しく学び、世界に発信できる英語を身につけることがねらいである。主人公の大学生タケシは夏休みを利用して初めてニューヨークへの一人旅にでる。タケシと共にニューヨークでの生活をバーチャル体験しながら、いきいきした英語表現を覚え、アメリカの生活文化を学ぶことを目的とする。			①オリエンテーション／機内		
			②到着		
			③ケイトと再会		
			④自由の女神		
			⑤メトロポリタン美術館		
			⑥レストラン		
			⑦ミュージカル		
			⑧体調不良		
到達目標			⑨スーパーでの買物		
1. 編入試験に役立つより高度な文法知識・読解力が身につくようになる。 2. ネイティブ・スピーカーとのより高度なコミュニケーションがスムーズに行えるようになる。			⑩スポーツ観戦		
			⑪ワシントン DC へ		
			⑫ホテル		
			⑬ホワイトハウス		
			⑭大学訪問		
			⑮帰国		
成績評価基準					
試験70%、出席・授業への参加態度30%の総合点で評価する。 試験は毎回実施する（合計15回）。					
テキスト					
西蔭浩子・Thomas Dillon 他「Let's Go Abroad!」 CENGAGE Learning 2016					
準備学習の内容					
指定したテキストの内容を全て事前に読み、単語の意味をきちんと調べておくこと。各回の授業範囲を予習・復習し、毎回実施するテストに備えておくこと。					

保 2	スポーツと健康教育Ⅱ			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	〃
栗原 栄				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
幼稚園教諭ならびに保育士の資格を取得する際に、なぜ体育・スポーツ・健康に関する講義が必修になるのか？受講生がこの質問に明確に答えることができるようになることが、本講義の第一の目的である。将来、現場において生かすことができる知識の教授を主な目的とする。			①オリエンテーション		
			②体育の基礎知識（原理 歴史）		
			③社会の変化とスポーツ（変遷）		
			④社会の変化とスポーツ（国際理解）		
			⑤社会の変化とスポーツ（経済との関わり）		
			⑥社会の変化とスポーツ（生涯教育）		
			⑦現代社会と健康（食と健康）		
			⑧現代社会と健康（運動と休養）		
到達目標			⑨現代社会と健康（エイズの予防）		
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自分自身で健康管理を心がける資質や能力を身につける。			⑩社会生活と健康（健康づくり）		
			⑪生涯を通じる健康（心身の健康）		
			⑫運動の学び方（計画的学び）		
			⑬運動の意義と高め方（トレーニング）		
			⑭運動の意義と高め方（けが、病気の予防）		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
出席、授業中態度、授業中小テスト、定期試験による総合評価					
テキスト					
授業中適宜指示する。					
準備学習の内容					
我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するため、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることを学習する。					

保 2	教育の本質と思想			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	〃
吉岡 真知子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育の重要な要素の1つである教育について、人間の生涯にわたる発達を支援する営みとして、その概要を広く理解する。教育学において、「教育」が、人が生まれてから、育ち、成人して以降にも関係する営みとして、人間形成としての教育について考え、教育学的な思考・態度の習得を目指す。 教育の基礎理論、歴史、制度、実践について諸外国にも目を向け、乳幼児期の教育についての理解を深める。			①教育の意義（「教育とは何か」保育者になるための教育と学びについて）		
			②教育の目的 人間形成（教育的意図をもった人間形成について）		
			③教育と児童福祉の関係（保育所・幼稚園・小学校の関係）		
			④人間形成と家庭・地域社会（地域の中で育つことと教育について）		
			⑤諸外国の教育思想（ルソー・フレーベル・ペスタロッチ他）		
			⑥諸外国の教育の歴史（フランス・ドイツ・イギリス他）		
			⑦日本の教育思想と歴史（日本における幼稚園教育のはじまり）		
			⑧子ども観と教育観（日本における近代教育の展開と戦後の教育）		
			⑨教育制度の基本（日本の教育制度と教育に関する制度）		
到達目標			⑩教育の法律と行政（教育を規定する法律について）		
			⑪諸外国の教育制度（アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス他）		
			⑫教育実践の基礎（わが国の保育内容・保育方法・保育形態）		
1. 教育の意義や教育的意図について理解する。			⑬さまざまな教育実践とこれからの教育実践の課題		
			⑭生涯学習社会と教育（基本理念と基礎理論）		
			⑮現代の教育課題（幼児教育の質の向上にむけて）		
2. 幼児教育の諸理論を知り、子ども観や教育観を深める。					
3. 教育実践の方法と課題を考え、実践者としての考えを深める。					
成績評価基準					
授業時の感想30% レポート評価（2回程度）70%					
テキスト					
矢藤誠慈郎 北野幸子編集「基本保育シリーズ②教育原理」中央法規					
準備学習の内容					
シラバスを見て、テキストを読んでおくこと（予習）					

保 2	教育と社会			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	選択必修
馬場 耕一郎				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について学ぶ。具体的には、①文化と子ども、②学校教育と子ども、③家庭や地域と子どもの3つの観点から講義し、子どもを取り巻く環境について、再認識することを目指す。			①子どもを取り巻く環境の捉え直しの視点		
			②文化の中の子ども		
			③文化の間に生きる子どもの育ち		
			④異文化理解		
			⑤＜文化と子ども＞		
			⑥近代学校教育の成立		
			⑦メリトクラシーとハイパー・メリトクラシー		
			⑧ヒドゥン・カリキュラム		
到達目標			⑨学びの原理		
1. 子どもを取り巻く環境を「文化」として捉えることを通して、人間と文化の関係について考えることができる。 2. 学校教育と子どもの学びについて社会的に捉えてみることを通して、自らの教育観について主体的に考えることができるようになる。 3. 現代社会における家庭・地域の特色や課題について説明することができる。			⑩現代学校教育の課題		
			⑪＜学校教育と子ども＞		
			⑫家庭教育と言語コード		
			⑬アメリカにおける取り組み		
			⑭現代社会における生活と家庭教育		
			⑮＜家庭や地域と子ども＞		
成績評価基準					
平常点50％ 試験50％とする。平常点については、授業内に出された課題と授業への参加態度などを評価する。					
テキスト					
後日指定する。					
準備学習の内容					
毎回の講義の内容を復習すること。					

保 2	キリスト教保育Ⅰ			卒 業	必修
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	選択必修
持田 葉子・岸本 朝予				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
キリスト教保育は、日本の保育の創始と発展に重要な役割を果たしてきた。本科目では、そのキリスト教保育の根底にあるキリスト教の人間観、子ども観について、またキリスト教保育の理念、目的、内容について講義する。また、キリスト教保育で大事にされている礼拝や行事についても取り上げる。			①授業の進め方とシラバスの説明、キリスト教保育誌について		
			②日本のキリスト教保育の歴史（創始期）		
			③日本のキリスト教保育の歴史（発展期）		
			④キリスト教の人間理解		
			⑤聖書の子ども理解		
			⑥キリスト教保育の理念と目的		
			⑦キリスト教保育の保育内容		
			⑧キリスト教保育の年主題・月主題等について		
到達目標			⑨キリスト教保育の礼拝（礼拝の意味と内容）		
1. キリスト教保育とはどのような保育なのかということ、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようになる。 2. キリスト教保育で大事にされている礼拝や行事の意味と内容について示すことができる。			⑩キリスト教保育の礼拝（讃美歌）		
			⑪聖話について		
			⑫キリスト教保育における行事（イースター、花の日）		
			⑬キリスト教保育における行事（収穫感謝礼拝、クリスマス）		
			⑭キリスト教保育と保育者		
			⑮キリスト教保育の使命		
成績評価基準					
授業での課題20%、レポート20%、試験60%の総合点で評価する。					
テキスト					
「新キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 2010 「キリスト教保育」（月刊誌）キリスト教保育連盟 2017					
準備学習の内容					
「キリスト教保育」（月刊誌）を事前によく読んでおくこと。					

保 2	キリスト教保育Ⅱ			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	秋学期	保育士	選択必修
小見 のぞみ				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
この授業では、キリスト教主義の幼稚園、保育園、認定子ども園で実践されているキリスト教保育に携わるために、その保育の原理と方法について講義する。これにより、子どもたちの「礼拝」や「キリスト教の祝祭・行事」に関わる知識と技術を身につけることを目的とする。			①コースオリエンテーション		
			②キリスト教の教育観と保育理念		
到達目標 1. キリスト教保育の礼拝、祝祭、行事などで、子どもたちに聖書のお話や、お祈りをするができるようになる。 2. キリスト教保育が大切にしていること、キリスト教保育を実践する保育者に求められていることを考えるようになる。			③今日の子どもとキリスト教保育の現状		
			④キリスト教保育における礼拝		
			⑤こどもさんびかと祈り		
			⑥聖書の話（物語の意味）		
			⑦聖書の話（語る技術）		
			⑧聖書の話（年小児への物語）		
			⑨聖書の話（年長児への物語）		
			⑩キリスト教のシンボルと教会暦		
			⑪キリスト教保育における祝祭		
			⑫キリスト教保育における行事		
⑬クリスマスを迎える環境構成とページェント					
⑭キリスト教保育における視聴覚教材					
⑮まとめ					
成績評価基準					
聖書物語の創作課題40%、視聴覚教材製作課題40%、ディスカッションへの貢献・参与20%によって評価する。					
テキスト					
「新共同訳 聖書」日本聖書協会、レギーネ・シントラー『子どもと祝うキリスト教の祭り』日本基督教団出版局、1995年					
準備学習の内容					
キリスト教、ならびにキリスト教保育に関わる用語理解のため、礼拝、クリスマス行事等へ参加する。					

保 2	臨床心理学（カウンセリングを含む）			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	選択必修
齊木 久代				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、“こころ”の問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究、実践する心理学の一分野である。授業は、保育者として必要な“こころ”の問題および心理アセスメント、援助の技術と理論に関わる基礎的トピックの理解をめざして行う。			①こころの問題とは		
			②心理援助のための基礎理論（精神分析的理解）		
			③心理援助のための基礎理論（愛着理論等）		
			④心理援助のための基礎理論（生涯発達について）		
			⑤ビデオ視聴と解説		
			⑥対象を理解する（発達検査）		
			⑦対象を理解する（知能検査）		
			⑧ビデオ視聴と解説		
到達目標			⑨対象を理解する（パーソナリティ検査：質問紙法）		
教育現場での相談、援助に保育者として必要とされる幼児理解、教育相談の理論及び方法について基本的な知識を理解し、説明し、応用することができる。			⑩対象を理解する（パーソナリティ検査：投影法）		
			⑪心理援助の方法を知る（カウンセリングの基礎）		
			⑫心理援助の方法を知る（カウンセリングの応用）		
			⑬ロールプレイング		
			⑭保育場面での援助、園内外の専門スタッフとの連携		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験70％、授業への参加状況（質疑応答、課題）30％					
テキスト					
資料を配布するとともに、参考文献をその都度紹介する。					
準備学習の内容					
配布資料、参考文献等を用いて、予習・復習をしておくこと。					

保 2	教育方法基礎論			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	—
千葉 武夫・吉岡 眞知子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
本科目は、幼児教育における教育課程や教育内容に関する教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）について、講義する。幼児教育にかかわる者として必要な教育の方法論や事例、情報活用能力、メディアリテラシー、保育の諸問題について検討する。				①オリエンテーション（本科目の目的・授業方法について）	
				②様々な教育方法について	
				③情報の受入れ、情報の収集	
				④情報の加工、情報の創造、情報の伝達	
				⑤幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等における情報提供	
				⑥行事などの案内	
				⑦園だより、クラスだより	
				⑧掲示板、連絡帳、手紙	
到達目標				⑨子どもとメディア（子ども向けのテレビ番組）	
1. 様々な教育方法があることを知り、その指導法について理解する。 2. 見る、聞く、理解するなど、必要な情報を正確に読み取ることが重要であることに気づく。 3. 人に正しく情報を伝えることができるようになる。				⑩子どもとメディア（テレビ番組制作の基本）	
				⑪保育をとりまく諸問題（情報量の多さ）	
				⑫保育をとりまく諸問題（教育方法）	
				⑬21世紀型学習力の育成	
				⑭課題のプレゼンテーション	
				⑮まとめと振り返り	
成績評価基準					
平常点50点、試験50点とする。平常点については、授業で実施するその日の学びの振り返りペーパーと授業への参加度などを評価する。試験については、学習到達度を確認するテストを行う。					
テキスト					
民秋 言編「幼稚園教育要領保育所保育指針の成立と変遷」萌文書林、その他、適時プリントを配布する。 参考文献：「幼稚園教育要領解説書」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
準備学習の内容					
授業の内容を復習し、次回の授業に参加すること。					

保 2	保育原理Ⅰ－B			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
千葉 武夫				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、幼児教育に関する理念、目的、保育制度、保育の内容、保育の環境などの基本的な知識を学び、幼児教育を行う施設・園の現状と課題について考察することにより、保育者としての基礎を学ぶことを目的とする。さらに、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された内容を具体的に理解し、保育の質の向上のために必要な理論・知識などを学ぶ。			①保育所・幼保連携型認定こども園の役割		
			②保育所保育に関する基本原則（保育の目標、保育の方法、保育の環境）		
			③養護に関する基本的事項		
			④保育の計画及び評価		
			⑤幼児教育を行う施設として共有すべき事項		
			⑥保育の内容（乳児保育に関わるねらい及び内容）		
			⑦保育の内容（1歳から3歳未満児の保育に関するねらい及び内容）		
到達目標			⑧保育の内容（3歳以上児の保育に関するねらい及び内容）		
1. 保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育所等の役割、保育の目標、保育所等の社会的責任について理解し、その使命を認識する。 2. 保育の内容について、どのような観点が重視されているかについて知り、自らが考える保育に取り入れることができるようになる。 3. 保育士及び保育教諭の専門性について理解し、自らの専門性を高めるために、今後も様々な知識や技能の修得、維持、向上に努めなければならないことに気づく。			⑨小学校との連携		
			⑩健康及び安全		
			⑪子育て支援		
			⑫職員の資質向上		
			⑬苦情解決・保育の評価		
			⑭保育課題		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
平常点50%、試験50%とする。平常点については、各授業で実施するその日の学びの振り返りペーパーと授業への参加態度などを評価する。試験については、学習到達度を確認するテストを1回行う。					
テキスト					
公益財団法人児童育成協会監修「教育課程・保育課程論」中央法規出版、民秋 言編 「幼稚園教育要領 保育所保育指針の成立と変遷」萌文書林、 参考文献：「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
準備学習の内容					
保育を理解するために、「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」をよく読んでおくこと。					

保 2	家庭支援論			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	春学期	保育士	必修
前田 佳代子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、社会の変化に伴う家庭や家族のあり方の変容と、保育技術や相談・助言、ソーシャルワークの技法を用いた子どもや家庭への支援について講義する。また、社会や家庭の今日的課題を理解するとともに、利用できる制度・社会資源や支援の方策を具体的な事例から学び、理解するように指導する。			①家庭の意義と機能		
			②家庭支援の必要性		
			③保育士等が行う家庭支援の原理		
			④保育におけるソーシャルワークの機能と実際		
			⑤子どもと家庭の在り方 1 家族の成員とその関係性		
			⑥子どもと家庭の在り方 2 家庭と地域社会の関係性		
			⑦地域社会の変容とワークライフバランス		
			⑧子育て支援施策・次世代育成支援施策		
到達目標			⑨子育てする家庭への支援体制		
1. 昨今の子育て環境、子ども・保護者・家庭が抱える課題について理解し、説明できる。 2. 保育士が子どもや家族のために行う基本的な支援について、事例を用いて説明することができる。 3. 多様なニーズに対する支援の可能性について、制度や社会資源などの具体例を用いて考察し、プラン化することができる。			⑩保育所で行う支援		
			⑪地域の子育て家庭への支援		
			⑫特別な支援を要する子どもと家庭への支援		
			⑬要保護児童とその家庭に対する支援		
			⑭地域（行政・社会資源等）との連携		
			⑮子ども・家庭支援の課題		
成績評価基準					
試験50%（授業期間中に家庭支援についての学修到達度を確認するテストを2回実施） 平常点50%（授業内で指示した提出物の提出状況と内容および授業中の積極的取り組み）					
テキスト					
「保育所保育指針解説書」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 橋本好市／直島正樹編著「保育実践に求められるソーシャルワーク」ミネルヴァ書房					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習すること。 次回の授業範囲を示すので、予習し専門用語等を理解しておくこと。					

保 2	ことばの教育			卒 業	選択
				幼二種	選択必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	〃
讃岐 京子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
幼稚園教育要領の教育課程、保育所保育指針の保育課程、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の指導計画における保育内容「言葉」と小学校学習指導要領「国語科」の内容とその関係について学び、保幼小連携の長期的見通しの中で連続性をもったことばの教育について考え、理解することを目的とする。			①オリエンテーション		
			②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領について		
			③保育内容「言葉」について		
			④小学校「国語科」について		
			⑤小学校における「国語科」授業の実際		
到達目標 1. 保育内容「言葉」と小学校「国語科」の内容と連続性について理解する。 2. 乳幼児期の「話す」「聞く」活動を支え、文字への興味や関心を育てる保育について考え、理解する。			⑥話し言葉を育てる（乳児期）		
			⑦話し言葉を育てる（幼児前期）		
			⑧話し言葉を育てる（幼児後期）		
			⑨聞くことの重要性		
			⑩聞く力を育てる		
			⑪言葉を育てる児童文化財（絵本・紙芝居他）		
			⑫言葉を育てる児童文化財（ストーリーテリング他）		
			⑬書き言葉への興味や関心を育てる（言葉あそびなど）		
			⑭書き言葉への興味や関心を育てる（環境構成など）		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
定期試験50%、平常点50%とする。平常点については、授業内に出された課題と授業への参加態度などを評価する。					
テキスト					
「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「小学校学習指導要領」文部科学省					
準備学習の内容					
保育内容「言葉」と小学校「国語科」の関係を理解するために、テキストをよく読んでおくこと。					

保 2	人 と 環 境			卒 業	選 択
				幼二種	選択必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	〃
中川 香子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、乳幼児をとりまく様々な環境（遊び・生活・家庭・保育・地域・社会など）が、彼らの生活や発達にどのような影響を及ぼしているかを学び、そこにおける課題を認識する。子どもの生活の中心である遊びについて理論や実践を通して理解を深め、心身の発達を援助するための指導の方法を学ぶ。また、今日必要とされる生活や保育の環境について自分の考えを持ち、保育者として援助を行うことのできる力を培うことをねらいとする。			①子どもにとっての環境について		
			②遊びに関する諸理論		
			③子どもの生活における遊びの意義		
			④いろいろな伝承遊びのテーマと子どもの心身の発達		
			⑤現代における群れ遊びの意義		
			⑥遊びの演習(1)——既存の群れ遊びを遊ぶ		
			⑦遊びの演習(2)——グループで群れ遊びを考案する		
			⑧子どもと遊び環境		
到達目標					
1. 乳幼児の生活における遊びの理論や意義について理解し、説明することができる。			⑨子どもと生活環境		
2. 遊びの演習を通して遊びが子どもの心身の成長にどのような役割を担うかを体験的に理解し、遊び方や指導の方法について示すことができる。			⑩子どもと家庭環境		
3. 保育室や遊具等を中心とする子どもの生活環境について自分なりのイメージを構築し、レポートを通して示すことができるようになる。			⑪子どもと自然環境		
			⑫子どもと保育環境（保育室）		
			⑬子どもと保育環境（園庭）		
			⑭保育者の援助		
			⑮演習の評価とまとめ		
成績評価基準					
授業に取り組む姿勢30%					
小テスト10%					
演習「遊び」のレポート10%					
理想の保育環境についてのレポートを作成し、提出する50%					
テキスト					
資料を配布する。					
参考図書 中川香子「かくれんぼうー内なる世界を育てる」人文書院 他					
準備学習の内容					
配布資料による予習・復習					
遊びの演習における教材研究と事前の準備					

保 2	数の教育			卒 業	選 択
				幼二種	選択必修
	2 単位	講義	秋学期	保育士	〃
森 知子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
子どもは、遊びや生活の中で必要感に基づく体験を通して、数量などの抽象的概念に触れている。事物を数えたり、等分したり、大きさを比べたり、形を作ったりなどの活動を通して、数量や図形についての興味・関心を育て、豊かな感覚が養われるようにすることが大切である。本科目では、乳幼児が数量概念について理解する過程や、好ましい援助のあり方などを講義し、保育実践例を取り上げながら、数量概念を扱うための考えや指導法を学ぶことができるよう授業を行う。また、幼小接続の視点から、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育のあり方についても考えていく。				①人間の生活と数量	
				②子どもと数量	
				③数唱と計数	
				④集めること、並べること	
				⑤量の把握	
				⑥形と空間の把握	
				⑦小学校学習指導要領「算数科」について	
				⑧幼小接続と数の教育	
到達目標					
1. 子どもが数・量・形を理解する過程や保育実践の中での数量指導のあり方を説明できる。				⑨数の教育と保育場面	
				⑩実践例と指導について（乳児）	
2. 小学校学習指導要領「算数科」の内容について知り、小学校への学びの土台となる保育のあり方を説明できる。				⑪実践例と指導について（幼児）	
				⑫実践例と指導について（集団の中で）	
3. 子どもの発達過程を踏まえて、子どもの数量感覚を豊かにする教材を研究し、数・量・形に関連のある作品を作成する。				⑬数についての諸理論	
				⑭数・量・形に関連のある教材について	
				⑮数・量・形に関する教材研究	
成績評価基準					
平常点（授業への参加態度、授業内課題）30%、レポート20%、教材研究作品提出50%の総合点で評価する。					
テキスト					
授業において、資料を配付する。					
準備学習の内容					
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」、その他、準備された資料を読む。授業の内容を踏まえて、教材研究に取り組む。					

保 2	音楽教育法（2年生用）			卒 業	選択
				幼二種	〃
	1 単位	講義	春学期	保育士	選択必修
持田 葉子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
本科目では、子どもの音楽表現の育ちを支えるために必要な知識と技術の習得のために、世界の代表的な音楽教育メソッド（コダーイ、オルフ、創造的音楽教育）を取り上げ、実際に自らが体験することを通して、それぞれのメソッドにおける考え方や指導方法について学ぶ。				①コダーイの音楽教育	
				②日本のわらべうた遊び	
				③オルフの音楽教育（オルフの基本的な考え方）	
				④オルフの音楽教育（言葉のリズムで遊ぶ）	
				⑤オルフの音楽教育（オルフ楽器による即興的な合奏）	
				⑥創造的音楽教育（サウンドマップを作る）	
				⑦創造的音楽教育（手作り楽器をつくる）	
				⑧創造的音楽教育（物語に音楽をつける）	
到達目標					
1. 授業で取り上げた音楽教育法の考え方や指導法の特徴について説明できる。 2. 授業で学んだ音楽教育法を取り入れた保育における音楽活動案を示すことができる。					
成績評価基準					
授業内での課題への取り組み30%、小テスト20%、レポート50%の総合点で評価する。					
テキスト					
毎回プリントを配布する。					
準備学習の内容					
次回の授業向けに配布されたプリントをよく読んでおくこと。					

保 2	保育内容総論			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	秋学期	保育士	必修
持田 葉子				認ベビ	々
				児二級	々
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育の全体構造を理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえ、子どもの理解、子どもの活動、保育環境、保育計画、具体的な援助、保育の評価と反省等を保育実践と結びつけて学ぶことを目的とする。また、多様な保育や地域との連携、保護者支援、保育者の専門性と資質についても講義する。			①保育所保育指針に基づく保育の基本		
			②保育の全体構造と保育内容		
			③保育内容の歴史的変遷		
			④養護と教育が一体的に展開する保育		
			⑤環境を通して行う保育		
			⑥遊びによる総合的な保育		
			⑦保育者の援助方法		
			⑧子どもの発達と保育内容		
到達目標			⑨保育における観察と記録		
1. 保育内容を総合的に捉えるとはどういうことか、事例を示して説明できる。 2. 子どもの発達過程を踏まえ、養護と教育が一体となった指導計画を作成できる。			⑩保育課程の作成		
			⑪指導計画の作成		
			⑫家庭・地域との連携		
			⑬小学校との連携		
			⑭保育の多様な展開		
			⑮保育者の専門性と資質		
成績評価基準					
平常点50%（授業内で出された課題の提出状況と内容30%、授業への参加態度20%）、試験50%とする。					
テキスト					
石川昭義他「保育内容総論」中央法規 2015 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 2017					
準備学習の内容					
保育を理解するために、「保育所保育指針解説書」をよく読み、指導計画の内容について研究しておくこと。					

保 2	保育内容総論			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	秋学期	保育士	必修
馬場 耕一郎				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、保育の全体構造を理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえ、子どもの理解、子どもの活動、保育環境、保育計画、具体的な援助、保育の評価と反省等を保育実践と結びつけて学ぶことを目的とする。また、多様な保育や地域との連携、保護者支援、保育者の専門性と資質についても講義する。			①保育所保育指針に基づく保育の基本		
			②保育の全体構造と保育内容		
			③保育内容の歴史的変遷		
			④養護と教育が一体的に展開する保育		
			⑤環境を通して行う保育		
			⑥遊びによる総合的な保育		
			⑦保育者の援助方法		
			⑧子どもの発達と保育内容		
到達目標			⑨保育における観察と記録		
1. 保育内容を総合的に捉えるとはどういうことか、事例を示して説明できる。 2. 子どもの発達過程を踏まえ、養護と教育が一体となった指導計画を作成できる。			⑩保育課程の作成		
			⑪指導計画の作成		
			⑫家庭・地域との連携		
			⑬小学校との連携		
			⑭保育の多様な展開		
			⑮保育者の専門性と資質		
成績評価基準					
平常点50%（授業内で出された課題の提出状況と内容30%、授業への参加態度20%）、試験50%とする。					
テキスト					
石川昭義他「保育内容総論」中央法規 2015 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 2017					
準備学習の内容					
保育を理解するために、「保育所保育指針解説書」をよく読み、指導計画の内容について研究しておくこと。					

保 2	保育内容 人間関係			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	2 単位	演 習	秋学期	保育士	〃
坂口 将太				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、子どもの人間関係や社会関係について講義する。日々の保育の中で起こる人間関係に関する出来事への基本的な考え方と指導法について説明する。また、現場での子どもの人間関係に対する対処方法について、事例を交えながら講義する。			①子どもを取り巻く人間関係		
			②子どもが人間関係から学ぶもの		
			③領域「人間関係」について		
			④幼稚園教育要領、保育所保育指針および 認定こども園教育・保育要領から見る人間関係について		
			⑤人間関係と道徳性		
			⑥保育者間の協力体制について		
			⑦家庭と保育者との連携について		
			⑧乳幼児期の発達について		
到達目標			⑨乳幼児期の人間関係の特徴		
1. 保育内容「人間関係」のねらいと内容について説明できる。 2. 子どもの人間関係の発達傾向について、事例をあげて示すことができる。 3. 子どもの人間関係の発達を援助する上で、現場で保育者が配慮する点等について事例を交えて指摘できる。			⑩事例研究① 遊びと人間関係		
			⑪事例研究② 人との関わりの実際と子どもの育ち		
			⑫保育者と子どもの関係① 心理的安定の基盤について		
			⑬保育者と子どもの関係② 幼児の仲間作りについて		
			⑭ちょっと気になる子ども		
			⑮地域子育て支援と人間関係		
成績評価基準					
授業態度15%、小テストおよび課題提出物35%、試験50%、詳細については授業内で説明する。					
テキスト					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省			「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府		
「保育所保育指針解説書」厚生労働省			小田豊・奥野正義著「保育内容人間関係」北大路書房		
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習、次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。 実習やボランティア等で子どもと関わった際に、気になったことや感じたことをまとめておくこと。					

保 2	保育内容 人間関係			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	〃
前田 佳代子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、子どもの人間関係や社会関係の発達について講義する。日々の保育の中で起こる人間関係に関する出来事への基本的な考え方や指導法について説明する。また、現場での子どもの人間関係に対する対処方法について、事例を交えながら講義する。			①子どもを取り巻く人間関係		
			②子どもが人間関係から学ぶもの		
			③領域「人間関係」について		
			④幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領から見る人間関係について		
			⑤人間関係と道徳性		
			⑥保育者間の協力体制について		
			⑦家庭と保育者との連携について		
			⑧乳幼児期の発達について		
到達目標			⑨乳幼児期の人間関係の特徴		
1. 保育内容「人間関係」のねらいと内容について説明できる。 2. 子どもの人間関係の発達傾向について、事例をあげて示すことができる。 3. 子どもの人間関係の発達を援助する上で、現場で保育者が配慮する点等について事例を交えて指摘できる。			⑩事例研究① 遊びと人間関係		
			⑪事例研究② 人との関わりの実際と子どもの育ち		
			⑫保育者と子どもの関係① 心理的安定の基盤について		
			⑬保育者と子どもの関係② 幼児の仲間作りについて		
			⑭ちょっと気になる子ども		
			⑮地域子育て支援と人間関係		
成績評価基準					
授業態度15%、小テストおよび課題提出物35%、試験50%。詳細については授業内で説明する。					
テキスト					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省		「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府			
「保育所保育指針解説書」厚生労働省		小田豊・奥野正義著「保育内容人間関係」北大路書房			
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。 実習やボランティア等で子どもと関わった際に、気になったことや感じたことをまとめておくこと。					

保 2	保育指導法			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	講義	春学期	保育士	選択必修
確永 ゆかり				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、保育を実践するために必要となる保育の内容や計画の具体的な展開について学ぶ。子どもの特性を理解し、乳幼児期にふさわしい経験や活動、子どもが主体性をより発揮できるように指導法や援助の仕方を考えて計画を立案し、実践する力を養うことをねらいとする。			①保育指導法の基本（幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園）		
			②子どもの理解と保育方法①（子どもの内面の理解）		
			③子どもの理解と保育方法②（発達を見通した関わり）		
			④乳幼児期にふさわしい保育内容と指導法		
			⑤保育における環境構成		
			⑥子どもの主体的な生活を基盤とした保育		
			⑦幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における指導計画と保育指導法		
			⑧保育所保育指針における指導計画と保育指導法		
到達目標			⑨方法としての様々な保育形態		
1. 子ども理解を基に、乳幼児期にふさわしい経験や活動について考え、立案できるようになる。 2. 子どもの主体性を活かせる指導法や援助の仕方について考え、実践できるようになる。			⑩保育計画と実践（指導計画の立案）		
			⑪保育における評価		
			⑫保育におけるカウンセリングマインド		
			⑬幼児期の教育と小学校教育の連携		
			⑭家庭や地域と連携した保育		
			⑮保育者としての専門性		
成績評価基準					
定期試験50%（授業で取り上げた内容についての筆記試験を定期試験中に実施する）、レポート10%（指導計画案についてのレポートを作成し、提出する。指導計画案についての学修到達度について評価する）、平常点40%（毎回のレスポンスーパー10%、授業での発表10%、授業への参加度20%）					
テキスト					
小田豊編「幼児教育の方法」北大路書房 2009 久富陽子編「保育実技」萌文書林 2005					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。					

保 2	保育相談支援			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	春学期	保育士	必修
波田埜 英治				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育相談支援の意義と原則について解説し、保護者支援の基本を演習を通して説明する。そして、保育士がソーシャルワーク的な関わりの中で援助方法を意識化することの大切さを講義する。また、保育者等の児童福祉施設での保護者支援の実際について演習を通して説明する。			①子どもの最善の利益と発達の保障		
			②保育相談支援の趣意		
			③保育の特性や専門性を活かす相談支援		
			④子どもの成育と喜びの享受		
			⑤保護者の保育力の向上と支援		
			⑥信頼関係が基本となる受容、自己決定、秘密保持		
			⑦保護者に対する保育指導		
			⑧保護者に対する支援方法		
到達目標			⑨保護者に対する支援と計画・連絡・記録・評価		
1. 保育相談支援の意義と原則について学び、保護者支援の基本を演習を通して習得する。			⑩要保護児童と家庭に対する支援		
			⑪ロールプレー、フィールドワーク等を用いた事例検討		
2. 保育者等の児童福祉施設での保護者支援の実際について演習を通して理解する。			⑫虐待とマルトリートメントの予防と対応		
			⑬社会的養護施設における支援の実際		
3. 児童福祉施設に関わるソーシャルワークの方法と技術を習得する。			⑭保育所における支援の実際		
			⑮児童発達支援センター等における支援の実際		
成績評価基準					
定期テスト50%、受講態度、提出物、出席等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
「保育の質を深める相談援助・相談支援」晃洋書房 西尾祐吾監修 2017年 立花直樹・安田誠人・波田埜英治編					
準備学習の内容					
相談支援の教科内容やソーシャルワークの直接援助技術を復習をしておくこと。					

保 2	保育相談支援			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	春学期	保育士	必修
立花 直樹				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育相談支援の意義と原則について解説し、保護者支援の基本を演習を通して説明する。そして、保育士がソーシャルワーク的な関わりの中で援助方法を意識化することの大切さを講義する。また、保育者等の児童福祉施設での保護者支援の実践について演習を通して説明する。			①子どもの最善の利益と発達の保障		
			②保育相談支援の趣意		
			③保育の特性や専門性を活かす相談支援		
			④子どもの成育と喜びの享受		
			⑤保護者の保育力の向上と支援		
			⑥信頼関係が基本となる受容、自己決定、秘密保持		
			⑦保護者に対する保育指導		
			⑧保護者に対する支援方法		
到達目標			⑨保護者に対する支援と計画・連絡・記録・評価		
1. 保育相談支援の意義と原則について学び、保護者支援の基本を演習を通して習得する。 2. 保育者等の児童福祉施設での保護者支援の実践について演習を通して理解する。 3. 児童福祉施設に関わるソーシャルワークの方法と技術を習得する。			⑩要保護児童と家庭に対する支援		
			⑪ロールプレー、フィールドワーク等を用いた事例検討		
			⑫虐待とマルトリートメントの予防と対応		
			⑬社会的養護施設における支援の実践		
			⑭保育所における支援の実践		
			⑮児童発達支援センター等における支援の実践		
成績評価基準					
小テスト50%（授業期間中に2回実施する）、受講態度、提出物、出席等50%で総合的に評価する。					
テキスト					
「保育の質を高める相談援助・相談支援」晃洋書房					
準備学習の内容					
相談支援の教科内容やソーシャルワークの直接援助技術を復習をしておくこと。					

保 2	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ			卒 業	選択
	2 単位	講義	秋学期	幼二種	—
依田 秀任・坂元 悦子・中村 かおり				保育士	—
				認ベビ	—
				児二級	必修
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
児童館・放課後児童クラブにおける活動内容、年間を通じた活動の流れ、行事等プログラムの企画立案方法について児童館実習に関連させながら学ぶ。また、遊びを通じた健全育成、居場所づくり、子育て支援や親支援、ボランティアの育成・支援等、児童館・放課後児童クラブの基本的活動と展開方法について具体的に学ぶ。			①オリエンテーション		
			②児童館・放課後児童クラブの活動のねらいとの流れ（日、週、年）		
			③児童館・放課後児童クラブにおける環境構成		
			④遊びを通じた児童の健全育成		
			⑤遊びを通じた支援の実際（プログラム作り、具体的展開、支援方法）		
			⑥児童館・放課後児童クラブにおける集団援助（グループワーク）		
			⑦児童館・放課後児童クラブにおける個別援助（ケースワーク）		
到達目標			⑧小学生の仲間づくり・居場所づくり		
児童館・放課後児童クラブの活動のポイント、利用児童のニーズとそれに対応する具体的な実践事例、地域との連携の実際等を理解し、児童館・放課後児童クラブの社会的意義・役割を簡潔に説明できる。			⑨子育て支援活動		
			⑩ボランティアの育成・支援		
			⑪児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援		
			⑫保護者・学校・地域等との連携		
			⑬子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）		
			⑭企画発表会、講評		
			⑮まとめ		
成績評価基準					
受講態度および課題への取組姿勢（50％）、小レポート（3回）（50％）により総合的に評価する。					
テキスト					
未定					
準備学習の内容					
使用されるテキスト配布資料および講義中に使用された用語の意味などを調べ授業に臨むこと。					

保 2	在宅保育論			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	講義	秋学期	保育士	—
山内 信子				認ベビ	必修
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
本科目は、施設保育で対応できない児童や、保育所に入所できない待機児童を支援する「在宅保育」の概念やその意義や役割、歴史などについて理解し、家庭訪問保育者および居宅訪問型保育者としての力をつけることを目的とする。				①家庭訪問保育の概要	
				②保育マインド	
				③居宅訪問型保育の概要	
				④乳幼児の食事と栄養	
				⑤小児保健Ⅰ・Ⅱ	
				⑥居宅訪問型保育の保育内容	
				⑦居宅訪問型保育における環境整備	
				⑧居宅訪問型保育の運営	
到達目標					
1. 「在宅保育」の意義や役割等について理解し、文章にまとめることができる。 2. 家庭訪問保育者と居宅訪問型保育者の違いについて理解し、それぞれに求められる役割を説明することができる。				⑨安全の確保とリスクマネジメント	
				⑩居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項	
				⑪居宅訪問型保育における保護者への対応	
				⑫特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）	
				⑬保育技術	
				⑭一般型家庭訪問保育の業務の流れ	
				⑮さまざまな家庭訪問保育	
成績評価基準					
・ 定期試験50% ・ 平常点50%（レスポンスペーパーの内容および提出状況40%、小レポートの内容および提出状況10%）					
テキスト					
公益社団法人全国保育サービス協会監修 家庭訪問保育の理論と実際—居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト 中央法規 2017					
準備学習の内容					
日頃から、保育や子育てに関する情報を新聞やWEB等で調べておくこと。					

保 2	乳児保育Ⅰ－B			卒 業	選択
				幼二種	—
				保育士	必修
前田 佳代子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい		授業計画			
本科目は、乳児の発達過程の理解を基礎とし、個人差や生育歴の違いに適切に対応する保育について講義する。また、乳児保育の理念と歴史の変遷を概観しつつ、社会的役割や保護者支援について講義する。 また、乳児保育の実践者として必要な知識、成長を支える生活や遊びについてグループワークから学ぶように指導する。		①乳児保育の理念			
		②乳児保育の歴史の変遷			
		③乳児保育の役割と機能			
		④保育所における乳児保育の現状と課題			
		⑤乳児院における乳児保育の現状と課題			
		⑥乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場			
		⑦新生児から6か月未満児の発達と保育内容			
		⑧6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容			
到達目標		⑨1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容			
1. 乳児保育の理念や現状と課題を学び、その果たす役割が説明できる。		⑩2歳児の発達と保育内容			
		⑪保育課程に基づく指導計画の作成と観察及び評価			
2. 乳児の発育・発達を理解し、個人に合った援助の方法を考察し、示すことができる。		⑫個々の発達をうながす生活や遊びの環境			
		⑬保育所における保護者に対する支援			
3. 観察や記録、自己評価の方法がわかり、指導計画が作成できる。		⑭保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援との連携			
		⑮職員間の協働			
4. 職員間の協働や保護者支援、関係機関との連携を理解し、説明ができる。					
5. グループワークを通して、チーム保育の基礎となるリーダーシップ力、積極性、協働性が身につく実践する。					
成績評価基準					
試験50%（授業期間中に乳児保育についての学修到達度を確認するテストを2回実施する）、グループワーク30%（グループワーク参加態度や資料持参状況、グループ発表等）、平常点20%（授業内で指示した提出物等）とする。					
テキスト					
大方美香・中西利恵編著「乳児保育」あいり出版 「保育所保育指針解説書」厚生労働省					
準備学習の内容					
乳児の発育・発達について予習・復習し、理解しておくこと。また、グループワークの際は、事前にテーマの内容について調べ、理解し、自分の意見をもって臨むこと。					

保 2	乳児保育Ⅰ－B			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	秋学期	保育士	必修
森本 宮仁子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、①乳児保育の歴史的変遷と役割を学び、現状と課題を理解する、②乳児の発達を概観し、成長を支える生活と遊びについて理解を深める、③指導計画作成のための、観察や記録および自己評価の方法を学ぶ、④虐待や子育て支援についても学び、連携の重要性和保育士の専門性について考察することを目的とする。			①乳児保育の理念と役割		
			②乳児保育の歴史的変遷		
			③乳児保育の現状と課題		
			④乳児や家庭を取り巻く現状		
			⑤保育所における乳児保育		
			⑥1才3ヶ月未満児までの発達と保育内容		
			⑦1才3ヶ月から2才児の発達と保育内容		
			⑧乳児や家庭を取り巻く環境と危機管理		
到達目標			⑨乳児保育における生活環境		
乳児保育の歴史的変遷と役割、現状と課題が理解できる。乳児の発達がわかり、成長を支える生活と遊びについて理解が深まる。観察や記録、自己評価の方法がわかり、指導計画が作成できる。虐待や子育て支援について理解し、連携の重要性和保育士の専門性について説明できる。			⑩乳児保育における人的環境		
			⑪指導計画と自己評価		
			⑫乳児と虐待、関係機関との連携		
			⑬子育て支援の実際		
			⑭発達を促す遊びの環境		
			⑮職員間の協働と保護者とのパートナーシップ		
成績評価基準					
授業ノート記録及び平常点で60%、課題提出物40%の総合点で評価します。					
テキスト					
保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
準備学習の内容					
自ら記録したノートについて、記載漏れがないか確認しておくと同時に読み返し復習しておくこと。提示した課題提出物について適切な内容となるよう事前に予習し、準備しておくこと。					

保 2	保育学研究演習			卒 業	必修
				幼二種	—
	2単位	演習	通 年	保育士	—
中川 香子・碓氷ゆかり・小見のぞみ・齊木 久代・高田 正久・橘 実千代・千葉 武夫・波田埜英治・馬場耕一郎・持田 葉子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
乳幼児の保育・教育に関する各自のテーマに基づき、卒業研究レポートの作成や作品の製作について指導する。主な研究内容として、保育内容、児童文化、子育て、人権教育等が挙げられるが、詳細は別に説明する。			①春学期オリエンテーション		
			②個別指導		
			③資料検索・収集法		
			④個別指導		
			⑤文献・事例研究		
			⑥個別指導		
			⑦作成法		
			⑧卒業研究レポート・作品題目届提出、概要決定		
			⑨秋学期オリエンテーション		
			⑩個別指導		
			⑪個別指導		
			⑫発表、ディスカッション		
			⑬発表、ディスカッション		
到達目標			⑭発表、ディスカッション		
1. 学びを深めたい乳幼児の保育・教育に関する研究テーマを定め、そのテーマに関する、より専門的な知識や技術を習得する。 2. テーマに基づき習得した知識・技術について考察し、それらの内容を集約して卒業研究レポートの作成や作品の製作をする。			⑮発表、ディスカッション		
			⑯発表、ディスカッション		
			⑰発表、ディスカッション		
			⑱発表、ディスカッション		
			⑲発表、ディスカッション		
			⑳発表、ディスカッション		
			㉑発表、ディスカッション		
			㉒発表、ディスカッション		
			㉓まとめ（卒業研究レポート・作品提出）		
			成績評価基準		
提出物50%（卒業研究レポート・作品題目届を定め提出する。卒業研究レポートを作成、作品を製作し提出する）、平常点50%（授業への参加態度、授業内で指示した提出物、授業内の発表の内容）					
テキスト					
準備学習の内容					
卒業研究レポートや作品に関する文献を検索し、必要な文献を読破すること。					

保 2	教 育 実 習			卒 業	選 択
				幼二種	必修
	4 単位	実 習	春学期	保育士	—
中川 香子・碓氷ゆかり・持田 葉子・上原 道子・小谷 牧子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、幼稚園において責任実習を伴う実習を行う。保育に参加することにより、子どもへの理解をさらに深め、幼稚園教育の目標、幼児の生活、保育内容、保育方法、保育者の援助等を体験的に学ぶ。また保育者の指導により実際に保育を実践し、幼稚園教諭として必要な知識、技能を習得することを目的とする。			1. 4～5月あるいは6～7月に協力実習園において17日間の実習を行う。(遠方の学生に限り、6月のみ自己依頼による地元での実習が可能)		
			2. 実習記録を実習園に提出し、保育者の指導を受ける。 3. 保育者の指導のもと、指導案を立案し、部分および全日の責任実習を行う。 4. 大学担当者が実習園を訪問し、実習状況の視察および指導、助言にあたる。		
			[その他] 原則として、実習中の欠席は認めない。ただし実習担当者が認めた理由による4日以内の欠席は補充実習を認める。5日以上（5日を含む）欠席した場合は、追試扱いとし、8月もしくは9月に全日程の実習を行う。その場合、原則として実習委託費を再徴収する。実習期間中は実習に専念し、心身の健康管理と免許取得への自覚と強い意志をもって、実習にのぞむこと。		
到達目標			本科目を履修するためには、「保育原理Ⅰ－A」「教育保育参観実習」の単位をすでに取得していなければならない。また「教育実習事前事後指導」を同時に履修しなければならない。		
1. 定められた日数の実習を行うことができる。 2. 幼稚園教諭の仕事について体験的に学び、その役割について説明することができる。 3. 保育者の環境構成や援助の根拠について考え、それを示すことができる。 4. 子ども理解にもとづいた指導案を立案して実践することができる。 5. 具体的な自己課題を発見し、改善に努めることができる。					
成績評価基準					
下記の項目に基づいて総合的に評価する。 ・ 本学が指定する実習日数を終える ・ 実習園への提出物（内容及び提出状況） ・ 本学への提出物（内容及び提出状況） ・ 実習園による実習評価 本科目は「教育実習事前事後指導」の成績評価と連動する。 ＊詳細は、初回授業時に説明を行う。					
テキスト					
「教育実習事前事後指導」に準ずる					
準備学習の内容					
これまでの保育の学び全般について復習する。また、実習園でのオリエンテーション内容をもとに、部分および全日実習の指導案を立案し準備をする。					

保 2	教育実習事前事後指導			卒 業	選択
				幼二種	必修
	1 単位	演習	春学期	保育士	—
中川 香子・碓氷ゆかり・持田 葉子・上原 道子・小谷 牧子				認ベビ	—
				児二級	—
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、「教育実習」の事前・事後指導である。事前指導では、オリエンテーションや小グループでの話し合い、模擬保育等を通して、実習に向けての準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味づけや自己評価を行い、それまでに獲得してきた保育観を発展させ、さらに保育者としての自覚の再認識及び自己課題の発見を目指すことを目的とする。			①2017年度実習について		
			②実習書類の作成		
			③幼稚園実習の意義、内容、心得の理解		
			④子どもの理解（1歳～2歳児）		
			⑤子どもの理解（3歳～5歳児）		
			⑥4月～7月の幼児の理解		
			⑦実習記録の書き方の留意点		
			⑧保育指導案の書き方の留意点		
到達目標			⑨分級による事前指導（実習課題の設定）		
1. 実習での意義、内容、心得について説明できる。 2. 実習に備えて準備をし、指導案の作成をすることができる。 3. 実習での体験を振り返り自己評価を行う中で、自己課題を持ち、改善に努めることができる。			⑩分級による事前指導（教材研究）		
			⑪分級による事前指導（指導案作成）		
			⑫分級による事後指導（実習の体験発表と共有化）		
			⑬分級による事後指導（反省と自己課題の発見）		
			⑭全体での事後指導（現職保育者による助言・指導）		
			⑮実習園による実習評価のフィードバック		
成績評価基準					
授業への参加態度、提出物の内容および提出状況により可否を判定する。 本科目は「教育実習」の成績評価と連動する。 ＊詳細は、初回授業時に説明を行う。					
テキスト					
小林育子「幼稚園・保育所・施設実習ワーク」萌文書林 2017 「キリスト教保育」（月刊誌）キリスト教保育連盟					
準備学習の内容					
事前指導では、実習園でのオリエンテーション内容をもとに、保育教材の準備を行い、指導案を書く練習をする。実習後は、実習を振り返られるよう実習記録や実習内容について整理をする。					

保 2	保育・教職実践演習（幼）			卒 業	選択
				幼二種	必修
	2 単位	演習	秋学期	保育士	〃
小見のぞみ・齊木 久代・中川 香子・赤木 敏之				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、各自の履修経歴、実習の体験等を踏まえて、幼稚園、保育園、認定こども園等において、教職者として、使命感と責任を持って職務を遂行するために必要な資質―①倫理観や人間性、②社会性や対人関係能力、③子どもの発育・発達ならびに現代社会における子どもの生活への理解、④保育に関する指導力等とクラス運営能力―を身につけることを目的とする。			①オリエンテーション 本科目の目的と計画（担当：小見・齊木・赤木・中川）		
			②保育者としての役割、職務内容（担当者：小見）		
			③実習体験の振り返りと課題（担当：赤木）		
			④子どもの発育・発達を理解（担当：齊木）		
			⑤現代社会における子どもの生活（担当：齊木）		
			⑥対人関係、コミュニケーション能力の育成（担当：齊木）		
			⑦保育課題（担当：中川）		
到達目標			⑧教材研究（担当：中川）		
1. 保育・教職に関して、どのような知識・技能を習得してきたのかを確認し、説明できるようになる。 2. 保育に関する現代的課題の中で、教師として自分が取り組んでいこうとする課題について、言い表すことができるようになる。			⑨保育の評価と学校評価（担当：小見）		
			⑩小学校との連携・接続（担当：小見）		
			⑪模擬保育の実施（担当：中川）		
			⑫模擬保育の反省・評価（担当：中川）		
			⑬クラス運営（担当：赤木）		
			⑭保護者との協働、地域との連携（担当：赤木）		
			⑮教職者の資質、能力、使命感の確認（担当：小見、齊木、赤木、中川）		
成績評価基準					
オムニバスの授業担当者による学習内容の習熟度（20×4）80%、合同授業でのレスポンスシート20%で評価する。					
テキスト					
「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説書」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 他					
準備学習の内容					
履修カルテ等を用いて1年半の履修状況について把握しておくこと。また、毎回の授業内容について復習し、次の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。					

保 2	保育実習Ⅰ－A			卒 業	選択
				幼二種	—
	2 単位	実 習	春学期	保育士	必修
橘 実千代・馬場耕一郎・森 知子・讃岐 京子・森本宮仁子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育所保育の特性である養護と教育が一体となった保育を、保育所における実践を通して理解する。子どもの発達、保育所での一日の生活、子どもの遊び、保育士の援助などを、現職の保育士の指導を受けながら学ぶ。また、職務体験を通して保育士としての資質や技能、職業倫理を獲得する。			①子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達（生活・遊び）を理解する。		
			②実習生として保育に参加する中で、保育の一日の流れを理解し、保育所の機能や保育の状態について理解する。		
			③子どもの個人差について理解し、その対応の方法を考える。		
			④保育の計画（保育課程・指導計画）について説明を受け、保育の実際と照らし合わせて理解する。		
			⑤保育士の指導を受け、指導案を立案した上で、生活や遊びなどの一部分の実習を行い、保育技術を習得する。		
			⑥職員間の役割分担とチームワークについて理解する。		
			⑦保育士としての倫理を具体的に学ぶ。（守秘義務・子どもへの関わり方）		
			⑧安全及び疾病予防への配慮について理解する。		
			⑨子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。		
到達目標			「保育実習Ⅰ－A」と「保育実習Ⅱ」は連続して行う。実施期間は、5月あるいは6月に協力実習園において各10日間行うが、6月のみ希望によって公立保育所実習や自己依頼による地元での実習を行うことができる場合もある。実習期間中、教員が各園を訪問し、実習状況の視察及び指導助言にあたる。		
1. 保育所の特性である養護と教育が一体となった保育を、実習を通して理解し、その知識を習得する。					
2. 子どもの発達や、保育所の機能、保育内容、保育士の業務内容について理解をする。			[その他] 原則として実習中の欠席は認めない。但し、実習担当者が認めた理由で、5日以上欠席した場合は、追試扱いとし、8月もしくは9月に実習を行うものとする。その場合、原則として実習費を再徴収する。		
3. 保育士になるための自己課題に気づき、自己課題を持つようになる。					
成績評価基準					
下記の4つの基準に基づいて判定する。					
①大学が指定する日数の実習。無断欠席、遅刻、早退は認めない。 ②実習園への提出物（内容及び提出状況） ③大学への提出物（内容及び提出状況） ④実習園による実習評価。					
本科目は、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅱ事前事後指導」の成績評価と連動する。					
※詳しくは初回授業において説明を行う。					
テキスト					
保育実習Ⅱ事前事後指導に準ずる。					
準備学習の内容					
これまでの保育に関する学びについて理解するように復習しておくこと。手遊びや絵本、手作り玩具など実習に用いる保育技術を身に付け、材料を準備しておくこと。					

保2	保育実習Ⅱ			卒業	選択
				幼二種	—
	2単位	実習	春学期	保育士	必修
橘 実千代・馬場耕一郎・森 知子・讃岐 京子・森本宮仁子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
保育所における実践を通して、乳幼児への理解をさらに深める。また、保育所の機能や役割、保育士の職務内容等についてより深い視点で学ぶ。現職の保育士の指導を受けて、指導計画を実践し、技術等を獲得する。家庭や地域の生活実態にふれることで、子育て家庭の福祉に関する理解を深める。			①保育全般に参加し、保育技術を習得する。		
			②子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に、発達の課題や生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。		
			③保育士の指導を受け、指導案を立案した上で、生活や遊び等の実習を行い、保育技術を習得する。		
			④子どもの家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。		
			⑤地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。		
			⑥子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。		
			⑦保育士としての職業倫理を理解する。		
			⑧保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。		
到達目標			「保育実習Ⅰ－Ａ」と「保育実習Ⅱ」は連続して行う。実施期間は、5月あるいは6月に協力実習園において各10日間行うが、6月のみ希望によって公立保育所実習や自己依頼による地元での実習を行うことができる場合もある。実習期間中、教員が各園を訪問し、実習状況の視察及び指導助言にあたる。		
1. 保育所実習を通して、子どもへの理解を深める。			[その他] 原則として実習中の欠席は認めない。但し、実習担当者が認めた理由で、5日以上欠席した場合は、追試扱いとし、8月もしくは9月に実習を行うものとする。その場合、原則として実習費を再徴収する。 「保育実習Ⅰ－Ａ」の所定の実習日数を終えていなければ、実施できない。また、「保育実習Ⅰ－Ａ」が追試扱いの場合、「保育実習Ⅱ」も追試扱いとなる。		
2. 保育所の機能や保育内容、保護者支援、保育士の業務内容について理解を深める。					
3. 保育士になるための自己課題を持つようになる。					
成績評価基準					
下記の4つの基準に基づいて判定する。					
①大学が指定する日数の実習。無断欠席、遅刻、早退は認めない。 ②実習園への提出物（内容及び提出状況） ③大学への提出物（内容及び提出状況） ④実習園による実習評価。					
本科目は、「保育実習Ⅱ事前事後指導」の成績評価と連動する。※詳しくは初回授業において説明を行う。					
テキスト					
保育実習Ⅱ事前事後指導に準ずる。					
準備学習の内容					
これまでの保育に関する学びについて理解するように復習しておくこと。手遊びや絵本、手作り玩具など、実習に用いる保育技術を身に付け、材料を準備しておくこと。					

保 2	保育実習Ⅱ 事前事後指導			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	春学期	保育士	必修
橘 実千代・馬場耕一郎・森 知子・讃岐 京子・森本宮仁子				認ベビ	〃
				児二級	〃
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目は、「保育実習Ⅰ－A」「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導である。事前指導では、オリエンテーションやグループ討議等を通して、実習に向けて準備を行う。事後指導では、実習で体験したことへの意味づけや自己評価、それまでに獲得してきた保育観の発展、保育者としての自覚の再確認、新たな課題発見が行えるように助言する。			①オリエンテーション		
			②初回テスト		
			③保育所保育の意義、目的、内容		
			④実習書類・記録などの記録の方法と実習の心構え		
			⑤保育所の一日（乳児）		
			⑥乳幼児の子どもの姿と保育士の援助		
			⑦入所児童の多様な保育ニーズ（現職保育所所長）		
			⑧子育て支援		
到達目標			⑨指導計画の作成と教材研究		
1. 事前指導では、保育所実習に必要な知識や技術を習得する。また、実習へ前向きな姿勢で取り組むことができるようになる。 2. 事後指導では、実習を振り返ることで、自己評価を行い、自己課題を持つようになる。			⑩模擬保育の試行的実践と討議		
			⑪実習課題の設定		
			⑫実習体験の発表と共有化		
			⑬現職保育者による助言・指導		
			⑭保育士になるための自己課題		
			⑮実習園による実習評価のフィードバック		
成績評価基準					
「授業への出席状況および参加態度」「提出物の内容および提出状況」を評価の基準とし、可否を判定する。 本科目は、「保育実習Ⅰ－A」「保育実習Ⅱ」の成績評価と連動する。 ※詳しくは初回授業において説明を行う。					
テキスト					
「キリスト教保育」キリスト教保育連盟 小林育子他著「幼稚園・保育所・施設実習ワーク」萌文書林 2017					
準備学習の内容					
事前指導では、実習に向けて、教材の準備をすること。事後指導では、実習での学びを振り返れるように、実習記録などを整理しておくこと。					

保 2	保育実習Ⅲ			卒 業	選 択
				幼二種	—
	2 単位	実 習	春学期	保育士	—
森 知子・小山 顕・中川 一良				認ベビ	—
				児二級	必修
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
児童館において10日間の実習を行う。実習を通して、①子どもの健全育成、②子育て家庭支援、③地域福祉促進のための諸活動など、児童館の役割や機能について理解を深める。児童厚生員の職務内容や職業理倫理について体験的に学び、児童厚生員に必要な知識・技術・判断力を養う。また、自己の課題を明確化できるよう指導・助言する。			児童館において10日間の実習を行う。実習期間は、2年次の夏季休暇中を原則とする。この科目は、児童厚生二級指導員の資格取得に係わる必修科目である。履修条件を満たしていない者は、履修できない。児童館実習オリエンテーションを別途実施する。オリエンテーションに参加しない者は、履修を認めない。		
			(内容)		
			1. 実習施設について理解する。		
			2. 施設での一日の流れを理解し、参加する。		
			3. 子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解する。		
			4. 援助計画を理解する。		
			5. 遊びや援助などの一部を担当し、実践的技能を習得する。		
			6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。		
			7. 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。		
			8. 児童厚生員としての職業倫理を理解する。		
到達目標					
1. 指定した全ての実習に取り組むことができる。			(その他)		
2. 児童館・放課後児童クラブの役割や活動を体験的に理解し、その内容について知識を持つことができる。			原則として実習中の欠席は認めない。但し実習担当者が認める理由で所定の手続きにより届出があった場合は、補充実習を行う。5日以上（5日を含む）欠席した場合は、追試扱いとし、追試の手続き及び追試手数料を納入した上で再度全日程の実習を行う。その場合、原則として実習費を再徴収する。		
2. 児童の健全育成のあり方や地域子育て支援のための知識・技術を身につけることができる。					
3. 児童厚生員の職務内容を理解するとともに、自己課題を明確化する。					
成績評価基準					
「実習日数」「実習先への提出物」「大学への提出物」「実習先による評価」を評価の基準とし、可否を判定する。本科目の評価は、保育実習Ⅲ事前事後指導の評価と連動する。					
テキスト					
保育実習Ⅲ事前事後指導に準ずる。					
準備学習の内容					
「実習の手引」や「要項」を熟読し、内容を理解しておく。健康管理に十分に留意し、実習生としてふさわしい身だしなみを考え、準備する。また、実習で活用できる遊びや教材を研究しておく。					

保 2	保育実習Ⅲ 事前事後指導			卒 業	選択
				幼二種	—
	1 単位	演習	春学期	保育士	—
				認ベビ	—
森 知子・小山 顕・中川 一良				児二級	—
授業のテーマ・ねらい				授業計画	
児童館実習のための事前事後指導である。事前指導では、実習の目的・内容・心得の理解、実習施設の概要理解、実習計画・目標の設定等を通して、児童館実習を円滑に進めるための準備を行う。事後指導では、各自の実習内容を振り返り、学びの確認と整理を行う中で、自己評価に取り組み、今後の学習課題を見出すことができるよう助言する。				①オリエンテーション	
				②実習の意義・目的・内容理解	
				③児童館の実際	
				④実習施設の概要理解	
				⑤実習の心構え	
				⑥児童館実習で活かせる遊び（学童）	
				⑦児童館実習で活かせる遊び（乳幼児親子）	
				⑧実習書類の作成	
到達目標				⑨実習計画・目標の設定	
1. 実習の目的・内容・心得を理解し、実習に向けて主体的に準備することができる。 2. 実習記録・実習指導案の書き方を理解し、実習生として自覚と責任をもって作成に取り組むことができる。 3. 実習施設の概要を理解し、実習書類の作成や実習計画・実習目標の設定などの課題に主体的に取り組むことができる。 4. 実習の総括と自己評価を行い、自己課題を明確にすることができる。				⑩実習記録の書き方	
				⑪実習指導案の書き方	
				⑫教材研究	
				⑬児童館実習を終えて（実習内容の確認・整理）	
				⑭実習評価表のフィードバック	
				⑮自己課題の明確化	
成績評価基準					
「授業への出席状況および参加態度」「提出物の提出状況および内容」を評価の基準とし、可否を判定する。本科目の評価は保育実習Ⅲの評価と連動する。					
テキスト					
後日提示する。					
準備学習の内容					
「実習の手引」や「要項」を熟読し、実習の目的や内容、心得等を理解しておく。					

保 2	保育と研修Ⅱ			卒 業	選 択
				幼二種	—
	1 単位	演 習	通年集中	保育士	—
持田 葉子・碓氷ゆかり・小山 顕・小見のぞみ・坂口 将太・橘 実千代・ 中川 香子・森 知子・山内 信子			認ベビ	—	
			児二級	—	
授業のテーマ・ねらい			授業計画		
本科目では、「保育と研修」の修了者に対し、専門的な知識や技能を高め、現在の保育現場で生じる多様な課題に柔軟に対応・実践できる力を習得することを目的とする。			①保育現場における安全・危機管理（担当：碓氷）		
			②リズム表現活動の指導法（担当：山内）		
			③集団あそびの指導法（担当：小見）		
			④小児救急救護法（担当：森）		
			⑤病児・病後児保育（担当：碓氷）		
			⑥乳児のケアの仕方（担当：森）		
			⑦体育あそびの指導法（担当：坂口）		
			⑧地域子育て支援の役割（担当：橘）		
到達目標			⑨現代保育課題（担当：小見）		
1. 保育実践の場で求められている幼稚園教諭・保育士の職務について理解を深め、主体的に考えることができるようになる。 2. 保育サービスの質の向上について理解を深め、主体的に考えることができるようになる。			⑩保育内容総論①（模擬保育）（担当：持田、坂口）		
			⑪保育内容総論②（模擬保育と討論）（担当：中川）		
			⑫保育者論（担当：碓氷）		
			⑬保育相談援助（担当：小山）		
			⑭絵と製作の指導法（担当：中川）		
			⑮まとめ（担当：持田）		
成績評価基準					
レポート50%（各学期において、各授業で提示された課題の中から1つ選んでレポートを作成し、提出する。課題の内容についての学修到達度について評価する） 平常点50%（授業への参加度等）					
テキスト					
適宜資料を配布する。					
準備学習の内容					
毎回の授業内容について復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。					